

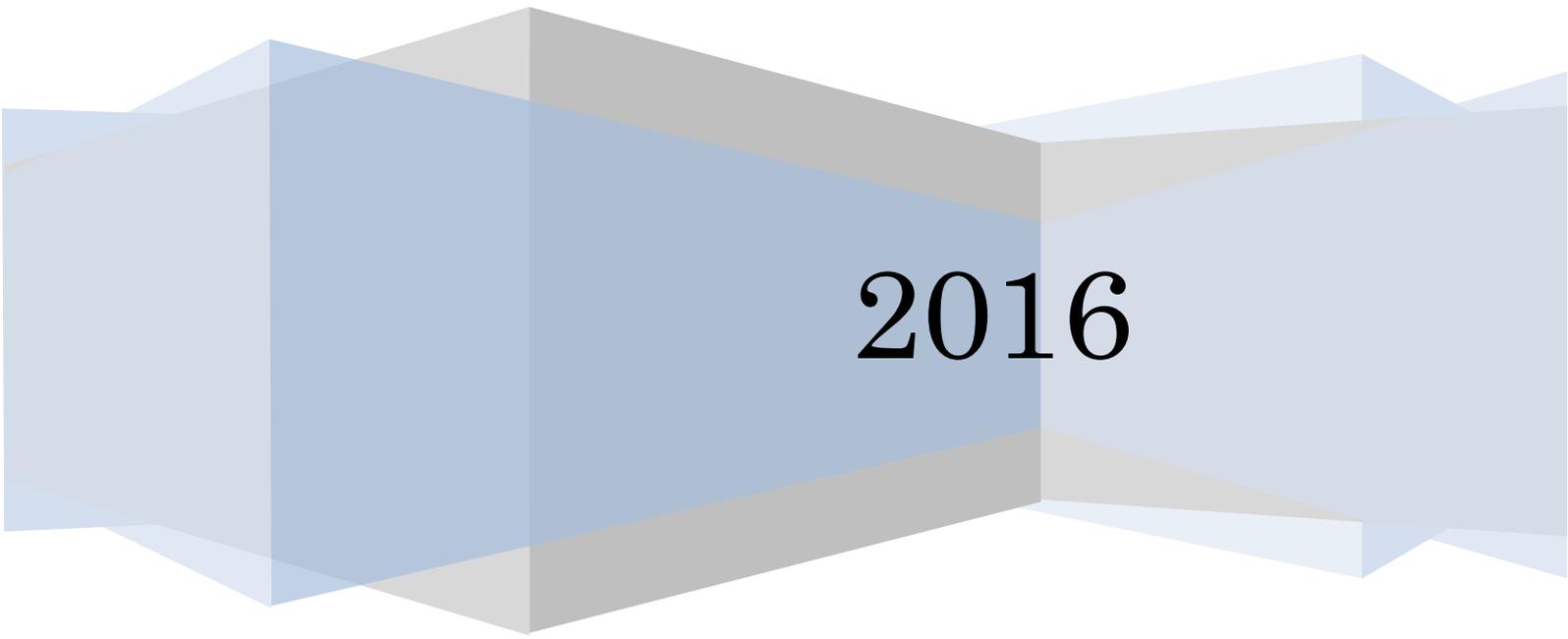
2016/07/18～08/08 (22 日間)

我が旅の人生

日本アルプス 3000m 峰 25 座

…日本海から太平洋へ…

大塚賢一



2016

★我が旅の人生★

還暦までがむしゃらに走ってきた…当然にそれなりのリスクは伴う…
己自身と自問自答し歩み続けた人生。

正義を貫くために検察庁にまで呼び出されたことも…。

己の背中を見て子供達孫達が成長してくれている姿は頼もしい。共に支えてくれている友に感謝、そして何よりも己を理解してくれている素晴らしき妻に敬意。

この計画は50歳の頃から温めている計画だ…それからの11年…体力、気力を持続するには相当な精神力がいる。

この10年で両方ともに徐々に衰えを感じ始めた…還暦を迎えての1年間…数々のコンビネーショントレーニングを計画実行しそれなりに体力気力が戻ってきたように思うのだが…

満たされる夢…それは遠く、険しくドップリと大自然の中に入り込み受け入れてもらうこと…心が山に物語を投影する。

日本の3000m峰25座…日本海から北AL～中央AL～南AL～富士山～太平洋までの約400kmの一筆書きをテントフル装備(18kg)を担いで、7月18日からの1ヶ月間…歩き人に徹する。

初日は富山湾から劔岳主尾根麓の馬場島までの30kmの歩きから始まる。

山登りには審判もいなければルールもない…常に己の体と自問自答し小さな一歩を進める。

下流老人、老いさらばえ足腰の弱りつつある男一人が挑む。



子供達、孫たちの力強い手形

はじめに

山やスキーには全くに関心が 21 年前の 40 歳まではなかった。それまではトライアスロンを中心にパラグライダー、トレラン、トライアルバイク、シーカヤック、リバーカヤック、MTB、クロスアドベンチャーレース等のアウトドアスポーツを楽しんでいた。

ある日の冬の晴天の日に、山好きの人から山スキーへ行かないか？…と言われて意味が分からなかったが、「スキーを担いで山の上から滑る」と言われたその一言に興味を持ち、言われるがままに全ての道具を借りて地元（兵庫県）の山「蘇武岳」へ繰り出した。ゲレンデで滑っているスキーヤーを横目に最終リフトを降りて、スキー板の裏にシールスキンを張り付けてサクサクと雪の上を歩いて登っていく…素晴らしい樹氷や霧氷に迎えられた別世界…写真の世界しか知らなかったが実際に見た時の感動は忘れる事が出来なかった。

しかし、いざシールを剥がして滑る段階になると、全くに体重コントロールが出来ない…七転び八起きの哀れな始末であった。当たり前でそれまではスキーなどリフトに乗って上から整地された斜面を滑ってくる…何が面白いのか…それぐらいにしか思っていなかったのが板を履いて滑ったのはこのときが最初であったので滑れるはずがなかった。結局は板を担いで降りてくる始末であった。

しかし、その時の素晴らしい大自然の景色が忘れられずにその年はゲレンデ通いでアイスバーンから腐れ雪、急斜面や悪天候下での滑降とさまざまな条件にでも対応できる滑降技術をと…それからは北アルプスや立山など高山にも入りテクニックを磨き、いつしかジャパンオートルート（日本の高山を繋ぎながら縦走滑降する）…立山 3000m 峰から槍ヶ岳を繋ぐルートを目指して、色々な雪山トレーニングやロープワークを取得して、8 年の計画を費やして 2003 年の GW に遂に成功させた。



風光明媚な世界に魅せられて様々な雪山を楽しませてもらった

続いて富士山最高峰剣ヶ峰 3776m からの大滑降やお鉢へ滑り込んだりと楽しんだ。



富士山最高峰剣ヶ峰 3777mから滑降



大滑降

いつしか山の地図を眺めてるうちに北アルプス～中央アルプス～南アルプス～富士山を繋げて、日本の 3000m 峰を 25 座（御嶽山とジャンダルムは除く）日本海から太平洋への一筆書きが出来ないものかと…考えるようになり計画を立ててはの繰り返しで歳を重ねてきた。

還暦を迎え定年を迎え、時間もある程度持てるようになってきたが、いかんせん歳を重ねるとともに気力体力の衰えも感じて体脂肪を増やすことも計画に入れて、ZERO TO SUMMIT を MTB を利用して富士山や剣岳をワンディピストンや氷上トレ、マルチピッチクライミングなどバランスと体力向上にトレーニングしてきた。



前穂高北尾根マルチピッチ



雲竜溪谷

日本縦断…この計画書を作り始めたころは、我が最強の山友の石野氏（67歳）と2人で実行する予定であった。

しかし昨年暮れに前立腺癌が発覚し今年の夏に手術をするので不参加となった。2人と1人とでは雲泥の差があるので、互いの甘えも無くなり全ては己一人でこなさなければならぬプレッシャーは相当なものであった。

全ての荷物を考え直して、テントも一人用を購入し、ザックにパッキングしては出してと…何度も何度も同じことを繰り返してこれでもか！と言うくらいに入念に持ち物を確認してはザックに詰め込んだ。

食料は・・・、雨の日は・・・、モバイル類のバッテリーは・・・着替え類は・・・、などなど、何度も何度も地図を読んでは一日にどれだけ移動できるか・・・神経質なほどに念には念を入れて頭に叩き込んで、ザックの確認作業が続いた。

ザックも縦走用に超軽量 50L グラナイトギアを購入したのだが、雨の日などを考えるとファスナー式で全面オープンし、サイドポケットが付いて荷物が出しやすい物に変更した。

・・・・・・ザック&ウエストポーチの総重量 18 kg・・・・・・

★★ 内訳 ★★

- ・ザック…50L（20年前の好日山荘オリジナル）
- ・テント…アライテントオニドーム1（Wウォール型、ポール、グランドシート込で1.5kg）
- ・寝具…テントマット2mm銀マット、シュラフ（モンベル5番）、サーマレストマットネオエアー、イスカエアーピロー
- ・エマージェンシーキット…包帯、ロキソニンシート、ロキソニン錠剤、アロエ消毒液、腹痛錠剤、三角巾、毛抜き、爪切り、裁縫セット、吸引機、浄水器、ピンセット、肉刺パット、キネシオテープ、ダクトテープ、捻挫固定テープ、痒み止め、プロテクト1、ハサミ、千枚通し、
- ・サプリメント…マルチビタミン、ヘム鉄、亜鉛、グルコサミン、アイサプリ、青汁顆粒
- ・服…羽毛上下、ファイントラックスキンメッシュロング上下&パンツ、5本指靴下2足、Tシャツ1、ランパン1、バーグハウス軽量ロングシャツ1、パンツ1、ノースフェイスズボン1、手袋1、シマノ暖キャップ1、
- ・雑品…防水手帳、ウェットティッシュ、シャーペン、ボールペン、トレペ1巻、小型ナイフ、小型ペンチ、ゴム紐1m、予備靴紐、細引き10m、サングラス、老眼鏡3、水泳用セ

ームタオル、1/50000 地図、日本全図 1/150000、コンパス、腕時計型高度計、針金 1mm×1m、ヘルメット

- ・電気類…ブラックダイヤモンドヘッドライト 1、軽量ヘッドライト 2、小型電気 1
- ・モバイル類…ガラケー携帯（予備電池 1）、デジカメ（予備電池 1）、GPS（単 3 充電電池 6 本）、ソーラー充電器 2 基、リチウム単 3 電池 4 本、リチウム単 4 電池 3 本
- ・火気類…バーナー、カセットボンベ 1、コッヘル 1、ライター 2、1L&2L プラティパス水筒、
- ・食料…尾西ジフィーズ 3、天野フーズ乾燥味噌汁 10、天然酵母パン 3、カロリーメイト 4、ココア 10、干し肉 1、乾パン 1、ピーナッツ 1、カップラーメン 4 ヶ
- ・カップ…モンベルの軽量型上下、軽量防水手袋 1
- ・靴…モンベルのラップアンドストライダー GTX のローカットモデル、ベルクロサンダル
- ・行動着…CW-X ロングタイツ、ユニクロエアリズム T シャツ、腰痛ベルト、タオル、帽子、モンベル指切りグローブ、シナノ軽量カーボン W ストック、5 本指靴下
- ・行動水…ポカリ 500ml、水 500ml、
- ・行動食…乾パン、チョコ、ビスケット

7/18（月） 曇 富山湾～箕輪温泉 累積標高差 250m

距離 12.5 km 行動時間 2.5 時間 15：00～17：30

近畿地方も梅雨明けになるころ、準備は整った…新幹線ホームで山友の石野氏とその孫たちに見送られて姫路 10 時発に乗る。

金沢駅でサンダーバードに乗り換えて（全て指定席なのでゆったりとしたものだ）、富山駅に着く。

続いて私鉄の「あいの風とやま鉄道」に乗り換えて滑川に着く…空は曇り空でそれほど暑くはない。

1.5 km ほど北へ歩いて富山湾の道の駅まで・・・ここは昨年に石野氏と劔岳ワンディアタック・・・AM2 時から MTB で 30 km を漕いで馬場島（750m）まで行き、登山で早月尾根を登り詰めて 2999m の劔岳を往復して 15：30 に帰ってきた思い出深い場所である。



滑川駅

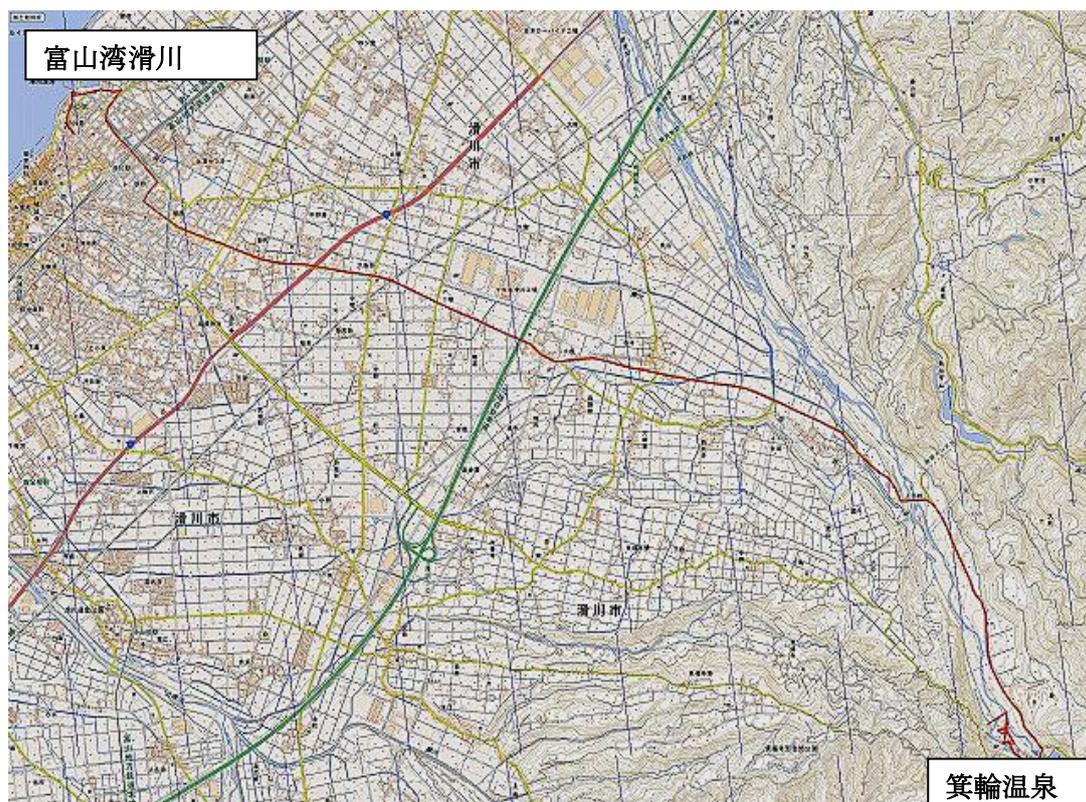


道の駅



日本海にタッチ

観光客が戯れている中、日本海にタッチして「よし！」とスイッチを ON に入れ替えて、ランパン、ランシャツに着替えて一路南の箕輪温泉までの 12.5 km を 15：00 にスタート。



しかし意気込みからか・・・初日からアクシデントが・・・シューズの中が蒸れてきて足裏が熱い・・・しかし大丈夫だろうとそのまま歩き続けたのが間違いだった。

2時間半で箕輪温泉にたどり着き、カレーライスとビール2本を美味しく平らげて、その後温泉に浸かり足裏を見ると・・・やってしまった…大きな水膨れが両足裏に出来てしまっていた…このシューズでアスファルト道を200kmは歩いて訓練していたのに・・・。



モンベルのラップアンドストライダーGTX

やはり大荷物を背負って歩くとは大きな違いがあったようだ。

今日はこの温泉宿で泊めてもらう予定だったが、当日では準備が出来ないのでダメ…と、ではその辺りにテントを張らせてほしいと…熊が出るので注意…あまりへんぴな場所はヤバイので、テニスコート受付の屋根のある絶好の場所にテントを張らせてもらった（もちろん内緒で…）



7/19 (火) 晴 箕輪温泉～馬場島～早月小屋キャンプ場 累積標高差 2160m
距離 25 km 行動時間 10 時間 05 : 30～15 : 30

4時起床…ココア、カップラーメン、パンで朝食を済ませてパッキング。
 今日は朝からいい天気だ・・・それはそれで暑くなりそうだ。

馬場島までの20kmの緩やかな登りを早月川と並行してゆっくりと歩いていく。
 昨日に肉刺をつくってしまったので今日は朝から無難にベルクロサンダルに履き替えてシューズはザックの後ろにくくり付けている。

朝からいい天気なのでザック後ろのソーラー充電器が発揮してくれている。

しかし、肉刺状態の悪化進行は急速に進み、最後の自販機 12 km地点で休憩後靴下を脱いでケアをするが、靴下は血だらけで真っ赤に染まりあがっていた…痛みも激痛でロキソニン錠剤を服用する…鎮痛剤は即効性がありいくらか和らいできたが、スタートしたばかりなのにここで中断か馬場島で休養をとるか…いやいやここで負けてなるものかと己との葛藤が始まる。



痛みもあるのだが、それよりも太陽がグングンを上昇し暑さもピークに達してくる。汗が頭から顔から雨のように滴り落ちる…ビタミンが…塩分が…損なわれていく。ポカリを飲みながら男梅（飴）を舐めながら補給をしていく。

10時半に何とか馬場島に着いた。食事をしようと玄関に行くが11時半まで掃除のために開放していませんとのことだ。

仕方がないので休憩所で足のケアをしながら簡単な食事を済ます。ここで一日ゆっくりとして休養をとろうと思ったが、この具合では一日では到底に良くならないと判断してテーピングで固定して登山靴に履き替えて早月尾根に登ることにする。

この尾根が馬場島740mから2200mで北アルプス3大急登の一つで、ものすごく暑く、また辛く、痛く、3拍子3悪で何とか4時間で早月小屋キャンプ場に着き…とりあえずはビールで喉を潤す。

テン場には一張りだけで静かなものだが、やはり山小屋はほぼ満員のようのにぎやかな雰囲気である。

早速にテントを張る…小屋で食事は出来るか?…と尋ねると客が多くてカップ麺しか提供できないと…、仕方なくテン場の外で雲海に浮遊する劔岳を眺めながらビールを飲みながら、カップ麺とジフィーズランチを美味しくいただく。とにかく炭水化物がメインに空腹を満たして足のケアを入念に行う…平地歩きの単調な繰り返しと違い、山に入ればフラットな所は少ないので幾分痛みは和らぐ…ロキソニンも効いているのだろう。



今日からが本当の試練と憧れが始まる



韓国から登りに来ている朴さん

夜の8時頃に着いて、ごそごと私の真横にテントを張っていた韓国の朴さん。彼も素晴らしい計画書を作っており、最終的に双六まで行って新穂高に下山すると言っていた…英語交じりの日本語で何とか通じた…行程は同じなので一緒に行こうと言っていたが、彼は朝から缶ビール

を飲んでいたので遠慮させてもらった。



7/20 (水) 晴 早月小屋キャンプ場～劔岳～劔山荘～一ノ越山荘 累積標高差 2760m
 距離 9.6 km 行動時間 10 時間 06 : 30～16 : 30

昨夜は満天の星空に抱かれて天の川も見えて疲れもありぐっすりと眠れた。

出足が遅くなり 6 時半になってしまったが、両足の肉刺のケアも今のところは万全でフラットな道ではないので痛みも殆ど感じずにマイペースで登っていくことができる。

3 時間ほどで劔岳山頂に到達できた…山頂には 10 人ほどの人数で非常に和気あいあいでのんびりと立山方面を眺めてゆっくりとしていた。

蒼天に漂うちぢれ雲・・・夏山到来の濃いハイマツの緑と岩稜帯、白い雪渓のコラボレーション・・・今ここにいる者にしか見ることのできない見事な大自然の芸術作品・・・壮大なキャンパスに溶け込んでいる。

これほどの贅沢はないだろう・・・。



劔岳から劔沢方面



知岳のカニの横ばいなどの岩稜クサリ帯を慎重に大荷物を振られないようにやり過ごし、ほどなく劔山荘へ・・・もの凄くいい天気なのでテラスで濡れテントやアウターを干し、カレーライスとおでんをいただく。

また行動食も仕入れる・・・早月小屋では何もなかったが、さすがは立山連峰・・・必要な食料類は何でも揃っているのには感謝感謝である。





テント類もすぐに乾いてパッキング。

予定では剣沢キャンプ場へ泊るのだが、ここからはすぐなので、頑張って剣沢から別山越えの急斜面を登って、立山三山を縦走して・・・最初の 3000m 峰 1 座…大汝峰を通過して一ノ越山荘まで行くことにする。

まだ夏山も始めなので、いつもは喧噪とした立山連峰も静かなものである。
広大な剣沢キャンプ場も 20 張りほどである。

別山を經由して真砂岳、富士ノ折立の稜線を歩く・・・真砂沢カール、内蔵助カールは雪が少ないといえども、まだまだ上部は滑れるくらいに雪が豊富に見える。

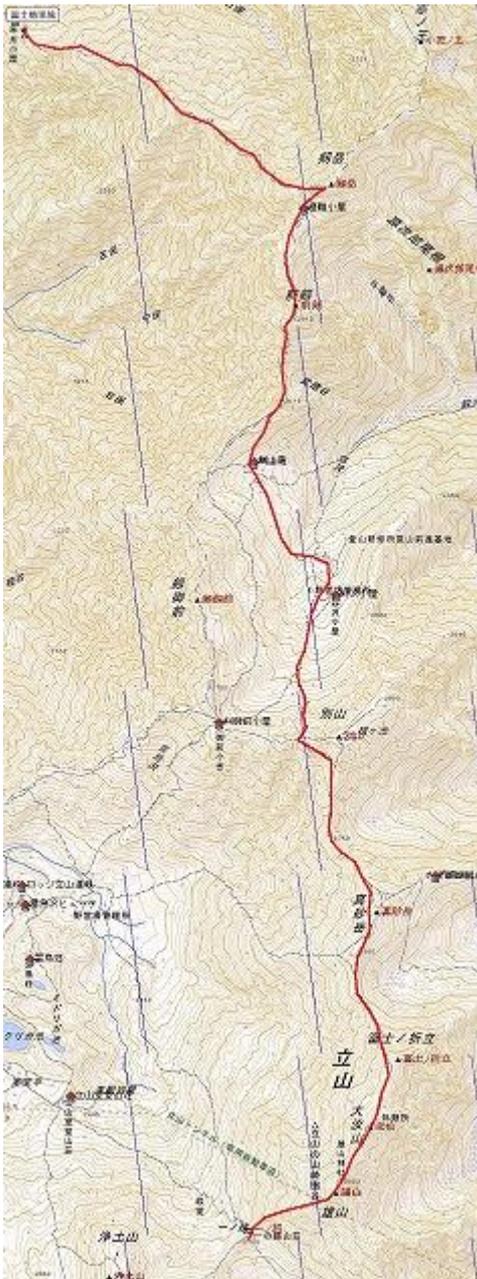
立山ではまだ内蔵助カールは滑り込んでいないのでいつの日にかここも滑りたいものである。

岩稜地帯でもちらほらと高山植物が可憐に咲き誇っているのが体の疲れも癒される。
いつもなら登らずに自然に通過してしまう大汝峰へザックをデポして登りこむ。



剣岳点の記のベースになった大汝休憩所

雄山への神聖な鳥居



雄山も 3000m 峰なので登る予定だったが、夏場は神聖な神社になり有料なので登らなかった。

そのまま下って一ノ越山荘へ・・・16:30 着。まずはビールで喉を潤し、夕飯は3膳お代わりしてたっぷりと炭水化物を補給する。

部屋は個室で 100v コンセントもありの至れり尽くせりで、携帯、カメラ、充電電池など全てを満充電にする。

夕ご飯をいただいて、足の肉刺を入念なケアをして、行動着を水洗いで干す。

身体の疲れは不思議なくらいあまり感じなく調子がよい・・・ストレッチしても殆ど筋肉の張りが少ない・・・充実しているようだ。

同室の人は私と同じく明日はスゴ乗越までのシニアの方で明日朝は4時に出発すると言っている…私も弁当を作ってもらい5時にスタート予定である。



7/21 (木) 晴 一ノ越山荘～五色ヶ原～スゴ乗越～薬師岳～太郎兵衛平キャンプ場
累積標高差 2260m

距離 17 km 行動時間 12.5 時間 05:00～17:30

今日も朝からいい天気だ・・・山小屋主人に「どこまで?」、「スゴ乗越です…地図上で10時間」、「8時間位で行けますよ」・・・と会話のやり取り。

スゴに13時ごろまでに着けば太郎兵衛平キャンプ場までと強気な気持ちがメラメラと沸いている・・・気持ちが先行しないようにマイペースで龍王岳へと登っていく。

このコースは槍ヶ岳までのジャパンオートルートであり、2003年のGWに山スキー装備で縦走滑降した思い出のあるルートである。

龍王岳山頂からは、すぐそこに五色ヶ原が見えるが・・・そこまでの夏道は鬼岳を巻いて獅子岳に登り、ザラ峠に降り少し登ったところに美しい五色ヶ原がある。

このザラ峠は徳川家康に再起を説得するために厳冬の飛騨山脈…ザラ峠越えで浜松城に入った佐々成政の強行伝説が徳川家康の史料「家忠日記」に記されている有名な話である。またその時に万が一に備えて立山の西側の歙崎山に埋蔵金 100 万両を埋めた伝説も有名である。

五色ヶ原に 8 時前に到着・・・ここで大休止で一ノ越山荘で作ってもらった弁当をいただく…五色ヶ原山荘でカップ麺を購入してしっかりと炭水化物を腹に満たす。

しかし、周りを見渡すとこんな贅沢なところでの朝食ランチはないだろう・・・。



五色ヶ原山荘と鳶山



いいペースで進んでいる。
身体も快調で足の肉刺も殆ど
痛みを感じなくなってきた。

ここで同室の先行者に追いつきスゴ乗越で会いましょう
と互いにエールを交わす。

越中沢岳に達するころ…よく
まあこんな所を山スキーで
どうやって来たのだろうとい
つもながらに不思議に思う。

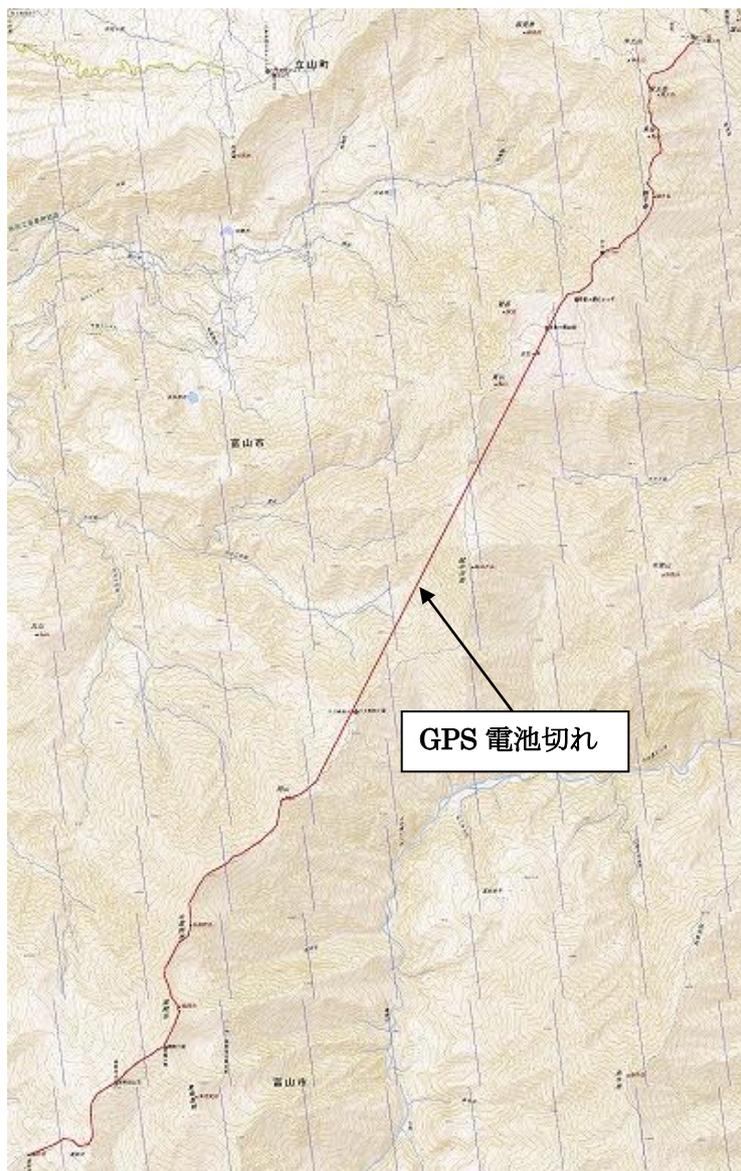
やはり雪が付いていて急斜
面を斜滑降でトラバースして
しのいだのだろうか…と。
板を担いでなど…とても考え
られない場所である。

この通過にストックとピ
ッケルでフィックスロープを
張ったりと…地元の山「氷ノ
山」でよくトレーニングして
いたことを思い出す。

越中沢岳を通過して、スゴ
の頭に着くと元気な山オバさ
ん 10 人ほどがワイワイガヤガヤで賑わっていた…常に何処から来たの? …と聞か
れるが大きなことは言わずに、一ノ越ですと言っても「え～ええ～」の返事だ…みんなは
五色ヶ原山荘から来ているので驚くのだろう…次に「何時に出たの?」、「5 時です」…再び
「え～ええ、早いねえ」のどこでも同じ返事が返ってくる。

スゴ乗越に着くとまだ 13 時…カレーライスをいただく…北アルプスでこのカレーライ
スが最高に美味しかったしボリュームたっぷりで 1000 円は格安だった。

13 : 30…予定通りの時間に着いたので足を延ばして薬師岳を越えて、地図上 6 時間の太
郎兵衛平キャンプ場まで行くことにする。



スゴ乗越からの間山、そして北薬師岳への登りは長く、誰にも合わないのでつらい時もあったが、北薬師岳から薬師岳が見えた時はヤレヤレの安堵感…しかしまだ時間も早いのに薬師岳にもこの時期なのに誰も居ないのには人が少ないなあ…と思う。



薬師岳山頂の神聖な祠



いつかは滑りたい薬師岳の金作谷カール

薬師岳からは薬師岳山荘や太郎兵衛平キャンプ場が見えているのだが、下りであっても歩きではなかなかたどり着けない・・・山スキーであったら大滑降ですぐ行けた記憶があるのだが・・・。

太郎兵衛平キャンプ場に着いたのは17:30・・・日はまだまだ明るいけど、テン場の受付は終わっていた・・・明日朝に太郎平小屋を通るのでその時にテン場代を払えばいいのだが、やはりたどり着いたらビールも飲みたいのでテント設営して往復40分の歩きで小屋へ買出しに行くことにする。

やはり私の疲れた身体にはこのビールが一番の活力源である・・・う～ん旨い・・・またこの太郎平小屋のビールはプレミアムとエビスしか置いていない贅沢な小屋でもある。



薬師岳山荘が見えてきた



太郎兵衛平キャンプ場



足裏の肉刺も体内治癒力で薄皮が張ってきた

7/22 (金) 晴 太郎兵衛平キャンプ場～薬師沢小屋～雲ノ平山荘～黒部源流～三俣蓮華
岳キャンプ場 累積標高差 2255m

距離 13 km 行動時間 8 時間 06:30～14:30

昨日・・・上を見上げれば蒼空と雲に幾筋もの閃光が濯がれ、眩しいくらいに時の瞬間の変化が現れていた。

夜には大自然が織りなす天空の万華鏡が現れて観る者に感動を与えてくれていた。
素晴らしい・・・と余韻に浸りながらシュラフに潜りいつしか朝を迎えていた…。

ゆっくり目のスタートで 6 時半。

北ノ俣岳から黒部五郎岳へは幾度も登っている・・・この時期は雲ノ平のお花畑が美しいだろうと・・・薬師沢へ降りていくことにする。

2 時間ほど下ると上ノ廊下と薬師沢、奥ノ廊下の三俣の出合いの薬師沢小屋に着く。
ここは 2002 年に来て以来の遡行した場所で鮮明な記憶がある・・・ここから奥ノ廊下を遡行して赤木沢に入り遡行して赤木岳にたどり着く・・・最もポピュラーな沢で素晴らしく明るい透明度抜群な沢登りである。

薬師沢小屋までは 3 度ほどの渡渉を繰り返す…吊り橋を渡り、ここからが今日の正念場…ものすごく急登で樹林帯の中の苔むした大きな岩がゴロゴロしており、心拍数を出来るだけ上げないように 2 時間ほど登ると雲ノ平のアラスカ庭園に着く…全くに花は咲いていなかったのは残念。



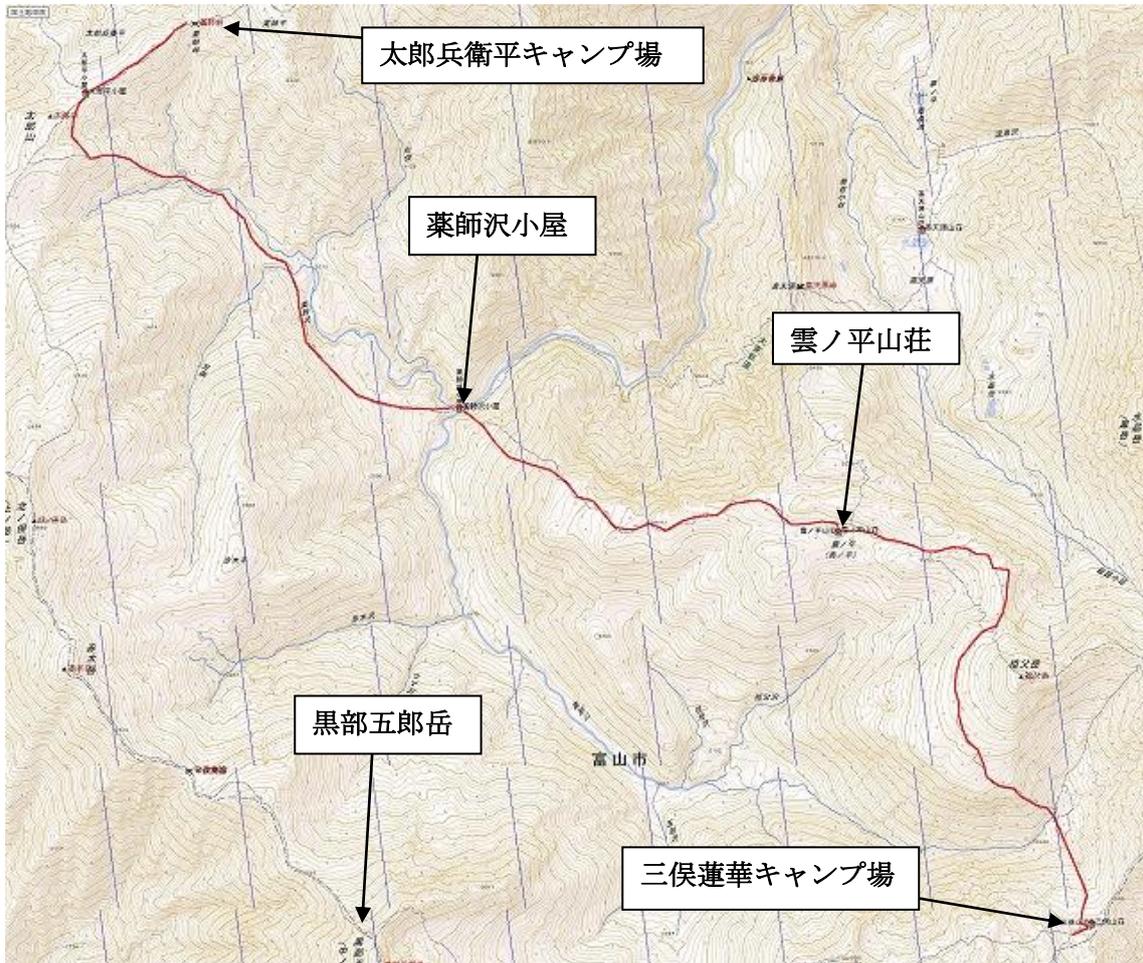
黒部源流沿いにある薬師沢小屋



薬師沢小屋からの良く揺れる黒部源流大吊り橋



飽きることのない素晴らしい雲ノ平の散策道だがお花が思ったよりも少なかった



雲ノ平山荘はモダンな作りで食堂も大きなスピーカーでゆったりとしたクラシックが流れており、外の天気も快晴でなんとも言えないゆったりとした時間が流れてのんびり・・・美味しいカレーライスをいただいた。

山荘からは日本庭園を過ぎてから黒部源流への急坂を降りていく・・・そこから再び登り返すと三俣蓮華山荘に到着だ。



この源流で裸になって行動着を水洗い



三俣蓮華岳 2841m

三俣蓮華キャンプ場に 14 : 30 着。

今日は足休めの日と決めて、テントを立てて湿ったものをハイマツに干したりして贅沢な時間をマッタリと過ごす。

三俣蓮華山荘でいつものカレーライスをいただき、ビールを飲んで雑誌を読んど…おまけにウイスキーも購入して気分は最高潮に・・・贅沢な時間が過ぎてゆく。



三俣蓮華山荘の素晴らしい食堂



水晶岳と鷲羽岳に乾杯

7/23 (土) 曇 三俣蓮華岳キャンプ場～双六巻き道～樅沢岳～西鎌尾根～槍ヶ岳～
大喰岳～中岳～南岳 累積標高差 2390m

距離 13.5 km 行動時間 9.時間 06:00～15:00

今日のメインは西鎌尾根の長い長い最後の急登である。

三俣蓮華キャンプ場を後にして双六岳の巻き道のお花畑街道を経て双六小屋へ…7時半。食べられる小屋では全て補給すると決めているので、小屋主人に朝早いけれどもカレーライスは出来ますか?…出来ますよと…うれしい返事が返ってきた…すぐさま注文する。



お味噌汁付きの美味しいカレーライスを舌鼓していただく。

双六小屋は登山基地のような所で東西南北から登山者が集まってくるので、この時間でもにぎわっている。

ほどなく新穂高からのトレランナーが来て天気はどうか?…と聞くと新穂高は雨が降っていたと言っていた。

どうも南へいくほどに天気はあまり芳しくないようだ…双六小屋の天気予報では、全く気圧の谷や低気圧はないのだが、どうも上空に寒気が入って不安定なようだと言っていた。明日から、槍穂高の大キレットを通過するのだが何とか天気が持ってほしいものである。

双六から樅沢岳を過ぎて長い長い西鎌尾根の縦走では雲ノ平と違い、もの凄く高山植物が咲き乱れて疲れた身体を癒されていると、飛騨沢からの合流地点の千丈沢乗越に着く。

そこから槍ヶ岳山荘までのつづら折りの急登が半端じゃなくしんどいのだが、そんな崖の急斜面にでも可憐な高山植物が咲き誇っているのには勇気をもらえる。



登山道付近には可憐な高山植物が咲き乱れている



天空をつらぬく槍ヶ岳が見え始めてきた

歩き始めて4時間半・・・11:30…槍ヶ岳肩の小屋に到着。
小屋付近には登山者が群がっているが、槍の穂先に登る人はまばらなので、ザックをデポして空身ですぐさま登り始める…空身だと登りと言えども全くに疲労感を感じないほどにスタスタと登頂だ。

山頂には3人だけ…先ほどまでガスが切れていたのだが、登った途端に辺り一面はガスに巻かれて視界は南西部の槍沢方面のみとなってしまった。



下山して、再び槍ヶ岳肩ノ小屋のカレーライスをいただく。ここも具たくさんで美味しかった。 さぁ腹も満たして時間も早いので南岳小屋キャンプ場まで頑張ろう・・・。

ここからがやっと 3000m 峰が連なるコースである。

槍ヶ岳 3180m、大喰岳 3101m、中岳 3084m、南岳 3032m…と連なる。

ほどなく岩稜地帯の登りになっていて、大喰岳 3101m が少し登山道から外れているのに気が付かずに通り過ぎてしまった・・・まあ仕方がないと中岳～南岳と向かう。



南岳小屋キャンプ場に 15:00 着。



南岳小屋…裏手がキャンプ場

テントを張って小屋でいつものカレーライスをいadakこうと注文するが、14時半でまでで昼は終了…とのことだ。

仕方がないのでビール片手にカレーカップ麺を作ってもらい、カレーせんべいを当てに腹の足しにする。

今晚は 3000m 稜線のキャンプ場泊なのでしっかりと羽毛服や合羽を着こみ寒さに備えたが、やはり夜中は寒さで目が覚めてしまった。

しかし外へ出ると天空にきらめく万華鏡で天の川がしっかりと流れていた…シュラフに入り丸くなって目を閉じて朝を待つ。

7/24 (日) 晴 南岳小屋キャンプ場～大キレット～長谷川ピーク～飛騨泣き～北穂高岳
3106m～瀬沢岳 3110m～奥穂高山荘～奥穂高岳 3190m～吊尾根～
前穂高岳 3090m～重太郎新道～岳沢ヒュッテ～岳沢～上高地小梨平
累積標高差 3375m

距離 11.5 km 行動時間 12.5 時間 05:15～16:30

今日が今回のプラン最大のミッションと過言してもいいほどに緊張する一日であろう。
天気は快晴、無風と自然のコンディションは最高である・・・山は迎え入れてくれる準備
をしてくれている。

あとは、己自身が岩稜と高度に飲み込まれずに、大荷物に揺さぶられてバランスを崩さ
ないと今一度自分自身に言い聞かす。



笠ヶ岳方面に朝日が当たりだし山々が目覚めだし雲海がうごめきだす



大キレットと北穂高岳 3106m

気合いを込めて準備していると、後ろから一緒に同行させてもらえませんか？…と一人の南岳小屋泊の 50 代の男性が・・・一緒にと言われても・・・後ろから付かせてくださいと・・・ルーファイに自信がないのです・・・わかりました、付いてきてください…絶対に落ちないように慎重に焦らず慌てず確実に 3 点支持でお願いしますと・・・。

こんな岩稜地帯は早く行けないのだからこちらも確実に一歩一掴みでゆっくりと進んでいく。

クライミングをしているので高度には慣れているが、涸沢テント村がゴマ粒のように小さく見えて、ここからの高度は 1000m 以上あるのがわかる。

大キレットを程なく通過したところ、軽装の若者が凄すぎですねえ…と追い抜かして行った。長谷川ピークを過ぎ、飛騨泣きに差し掛かると、ここが有名な飛騨泣きですか？…と、そう北側からの飛騨泣きはルートが見えているから問題ないけれど南側からのここはルートが分かりづらいから気を付けなければ足の置き場が無くなる…とアドバイスをする。

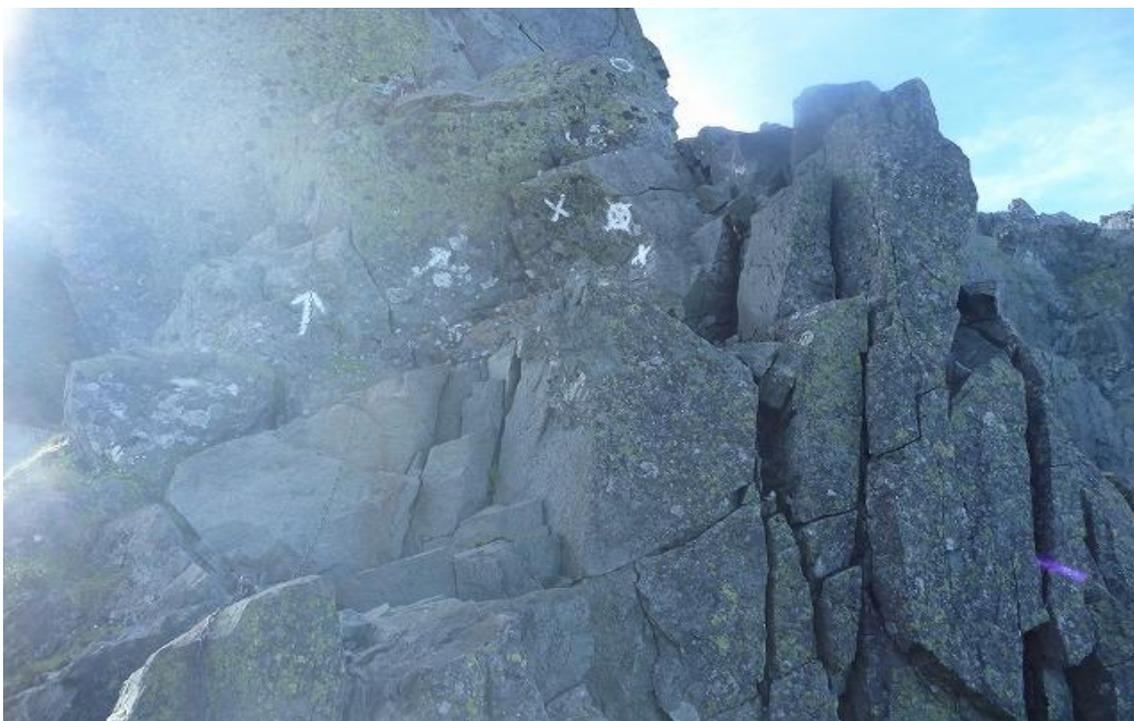
飛騨泣きからの急登の北穂高小屋までの岩稜斜面はクサリとハシゴの連続でマーカーさえ見落とさなければ問題ない・・・あとは落石に注意・・・今日は日曜日で下山日なのか北穂から来る登山者に全くすれ違わなかったのもラッキーであった。



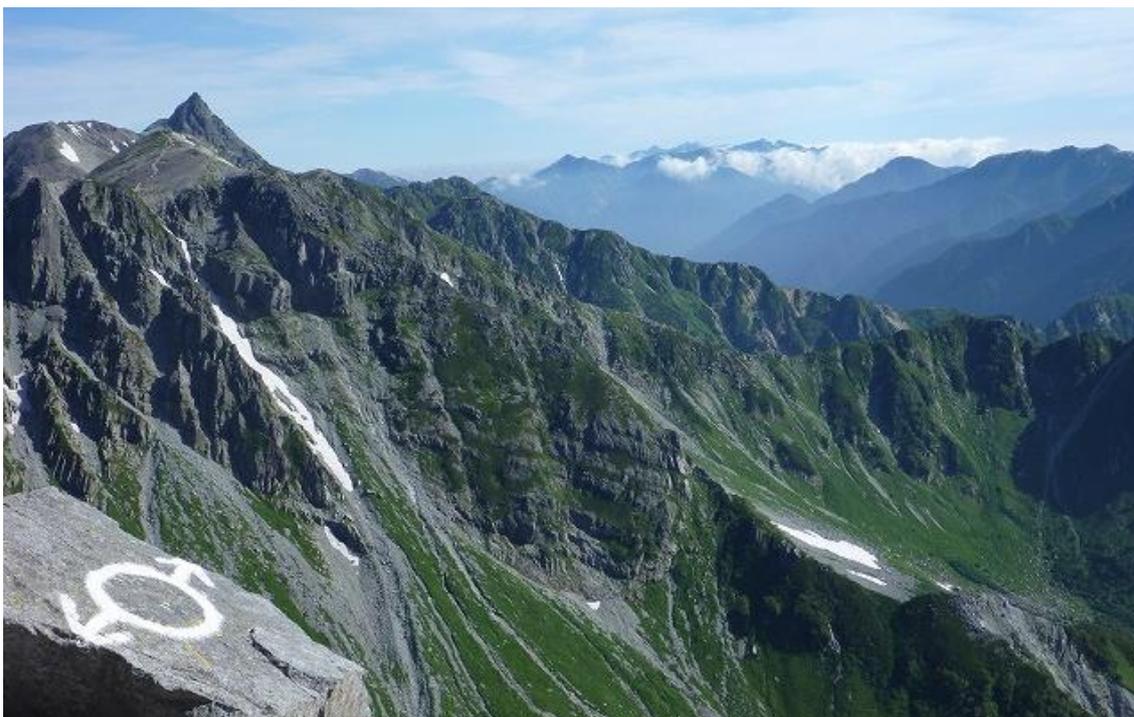
軽装の若者（ここに行くために余分な物は全て南岳で捨てたと言っていた）が行く



大キレット…この岩稜尾根を通過してきた…ここから見るとどこにルートがあるのかわからない



飛驒泣き



北穂高小屋から槍ヶ岳と東鎌尾根をふりかえる

北穂高小屋で一息入れて・・・カレーライスをいただこうとしたら時間が早すぎてまだ出来ない・・・仕方なく行動食で済ます。カレーライスは奥穂高小屋までおあずけた。

北穂高小屋から奥穂高小屋までも同じような岩稜地帯がこれでもか・・・というくらいに続くので、気は全くに抜くことは出来ない。同行の彼も最初は上高地まで行くと意気込んでいたが、奥穂高岳小屋に着いて昼食を済ますなり、やっぱり疲れましたのでここからザイディンラードを降りて上高地に行きますと・・・それはそれで構わないですよと別れる。



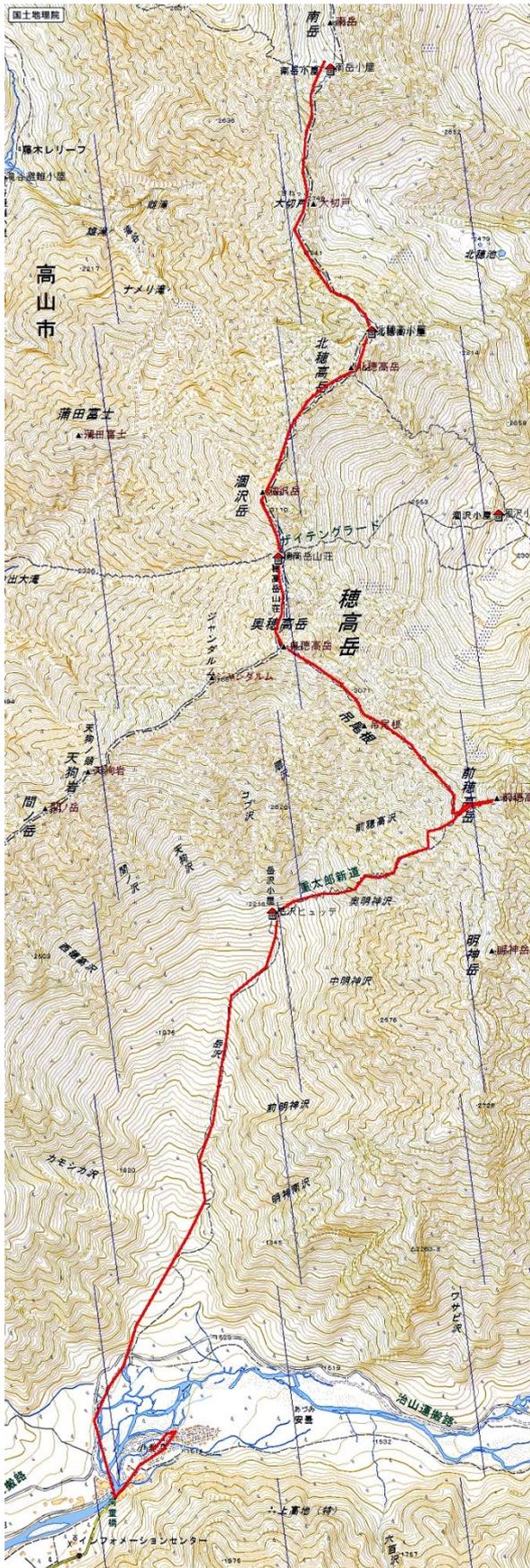
北穂高岳 3106m



前穂高北尾根



酒沢岳 3110m



奥穂高山荘を後にして、奥穂高岳の急な岩稜斜面を登っていると、北アルプスのパトロール隊が、「どこまで行くのですか?」、「時間も13時を過ぎていたので思わず岳沢キャンプ場までです」と、「前穂高ピストンは諦めて降りて下さいね」、「はい、わかりました」と…返事をするが、そういう訳にはいかないのだ。

明日の天気が怪しいので前穂高もピストンして岳沢を通過して上高地まで降りるのだ。

奥穂高の登りが急なので「はあ、はあ、ぜえ、ぜえ」だったのでパトロール隊もその容姿を見て無難に答えてくれたのだろう…オレの底力を舐めるなよ!と、気合を入れなおして奥穂高岳 3190m登頂。

続いて先行者を次々と追い抜かしながら吊尾根を縦走して紀美子平に到着…ザックをデポして前穂高岳 3090m登頂。山頂には青森県から来た若い3人の男性がいた…彼らは上高地からピストンで明日帰りますと…何故にわざわざ青森から飛行機で来て前穂高岳だけなのか理解に苦しむ。

彼らと前穂高を後にして私も上高地へとややこしい急斜面の重太郎新道を慎重に下っていくと、岳沢小屋が見えてきた…ここも素通りして、上高地の小梨平キャンプ場まで一気に下山した。

時間も16:30…受付を済ますと、まだお風呂に入れますよと、優しい言葉が返ってくる…ありがたいことです。

予報通りに夜から土砂降りの雨が…そのまま2日間続く…足休めの休養日とする…食堂とお風呂で身体の回復に努める。

また食料とガスと靴下を補充…勤めを

果たしてくれた岩稜登攀用のヘルメットやTシャツをありがとうと言って、小梨平で処分した。



奥穂高岳 3190m…展望は一つ…贅沢は言っていない次は…



吊尾根を縦走して紀美子平にザックをデポして、速攻で前穂高岳 3090mへ・・・



素晴らしい上高地に降りてきた…いつ来ても自然にできた日本を代表する庭園だ



大自然の中で大雨にも持ちこたえて頑張ってくれた…アライテントのオニドーム1

7/25～26（月、火） 雨 上高地小梨平停泊（休養日）

7/27（水） 曇/晴 上高地小梨平～バス移動で豊平～乗鞍岳（剣ヶ峰）3026m～
乗鞍岳南面トラバース～中洞権現尾根～南乗鞍アイミックスオート
キャンプ場 累積標高差 2260m
距離 47 km + 14 km 歩行動時間 13.5 時間 05：00～18：30

昨日の天気予報では、今日はなんとか回復傾向になるようだ。
足のケア用のテーピングテープも無くなりガムテープで補強する羽目になってしまった
（上高地には何処にも売っていない）が、これも試練と言いかせろ。

3時半起床…雨は小雨状態だが天気予報を信頼して食事を済ませて、濡れたテント類をザックにパッキングする。

5時スタート…やはり同じように登山者が続々と私と反対の方向…徳沢や横尾方面へ穂高に向かっている。

私は、朝霧の中の上高地散策道をサクサクと…帝国ホテルを過ぎ、上高地トンネルにさしかかるころ…赤色灯が…「何かあったんですか？」、最初はだんまりだったが、「どこへ行かれるのですか？」、「トンネルを歩き通して沢渡方面から白骨温泉へ」、と言うと「危険です…熊の目撃情報があったので」と…色々事情を話すと上高地からバス移動してくださいと、パトカーで上高地バスターミナルまで送ってくれた…アクシデントではあるが、これはこれで素直に受け入れてお礼を述べる。

今日の予定は釜トンネルを歩いて歩いて、白骨温泉で昼食をしてから十石東尾根を登り十石峠避難小屋泊だった…明日は十石山から平湯乗鞍登山道を歩いて中洞権現尾根だったが、一日短縮になった・・・またいつかはこのルートを歩きたいものである。

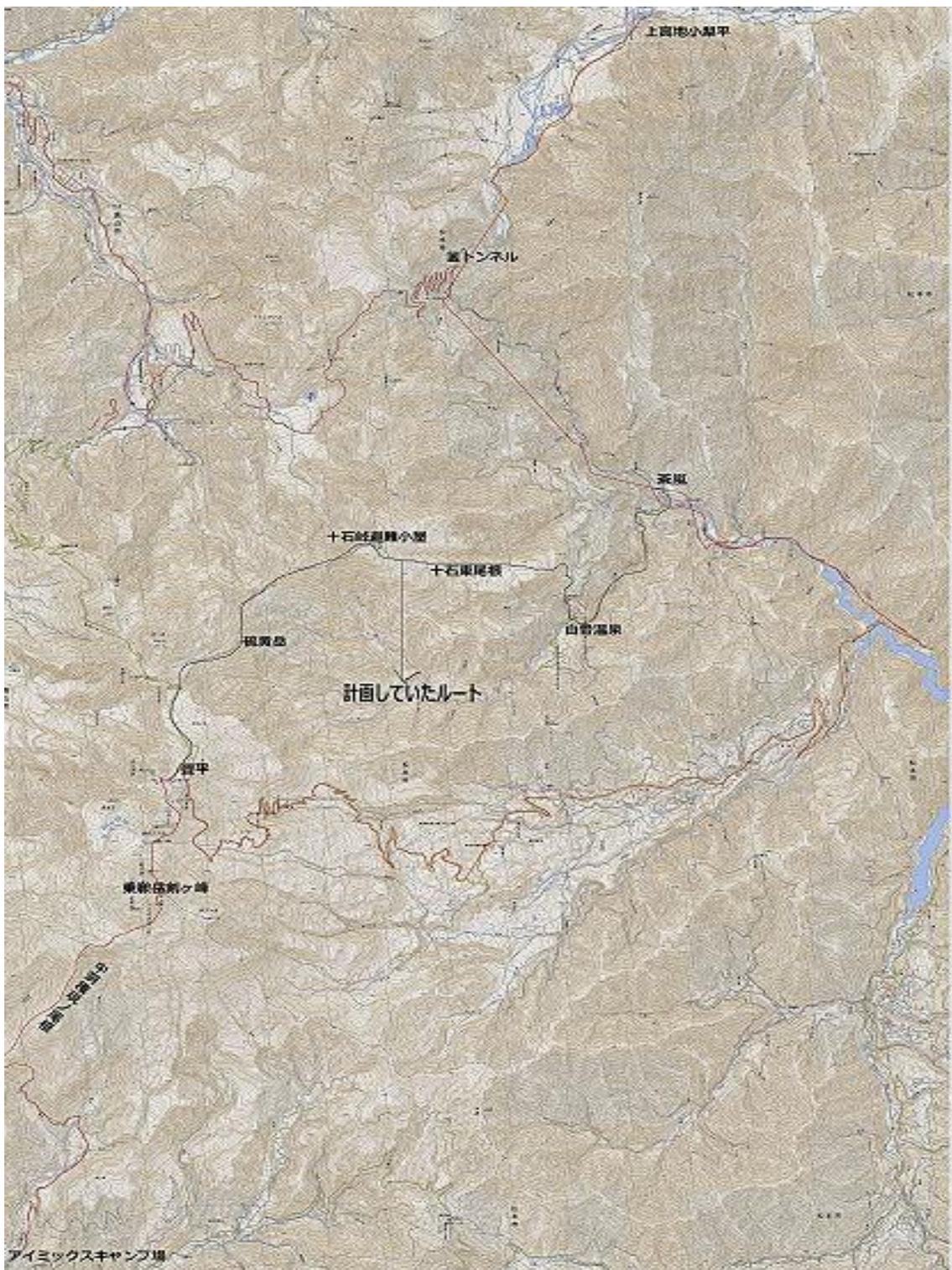
ちょっと拍子抜けだが、まあこれも旅の思い出と素直にバス移動で一気に乗鞍豊平まで上がる…交通機関を使えば本当に楽チン・・・観光客と一緒になので色々聞かれるのはちょっと返事をするのがウザったかったが・・・。

10時に豊平 2702mに到着。

さあ、大勢の観光客をサクサクと抜かして剣ヶ峰 3025mへ登頂…そこからのトラバース道が分からなくて権現神社の神主さんに尋ねると「あそこから降りて行きますが、道は分かりづらくヤブ漕ぎですよ」と言われるが、躊躇している暇はない…観光客から一人離れてややこしい登山道を降りると、素晴らしいお花畑が向かえてくれた。

その道中でなんと！・・・同じように太平洋から日本海を目指している若者 37 歳の

徳原さんと出会った・・・感動的な出会いであった・・・彼の計画は私など及びもしない
すごい計画で殆どの山々を目指して縦走していた・・・熊にも3回出会ったと言っていた・・・
南アルプスは要注意ですとアドバイス・・・また登ってきた中洞権現ノ尾根の注意点など
も聞いて俄然勇気が湧いてきた。 お互いのゴールの健闘を祝って別れる。





乗鞍岳 3026m山頂



日本縦走中の徳原さん



何処に登山道があるのかもとても分かりにくい中洞権現尾根

ほどなく、トラバース道から中洞権現ノ尾根に入るとハイマツだらけでどこに登山道があるのか非常に分かりづらい・・・特に下りはテーピングが見えにくいのだ。

GPS と地図を頼りに慎重に道を外れないように長い長い尾根をヤブを漕ぎながら笹をかき分けながら 5 時間ほどかかって進んでいく。

やっとのことで林道へ飛び出す・・・沢の水で行動着を水洗いして小休止…徳原さんはこの林道終点地点で昨日テントを張っていたと言っていたなあ。

林道を 1 時間半ほど歩くと今日のテ泊予定地のアイミックスオートキャンプ場にたどり着いた…まだシーズン始めとあって殆どキャンプ客はいない・・・この社長・・・野々宮氏に大変によくしてもらいテント泊ではなく、ロジ泊をプレゼントしてもらい、温水シャワー、洗濯機、乾燥機まで使わせてもらい本当にお世話になり夕方まで事務所で色々話し込んでいた。 またロジ内には 100v コンセントもあり全てを充電できとても助かった…一期一会。



7/28 (木) 晴 南乗鞍アイミックスオートキャンプ場～高根乗鞍湖～木曾街道～長峰峠
～開田村～高原食堂～馬橋～地藏峠～二本木の湯～民宿黒川荘

累積標高差 1685m 距離 45 km 行動時間 11.5 時間 06:00～17:30

今回の行程でこの日の幾度も峠越えのアスファルト道歩きが最もつらかった。



アイミックスキャンプ場から高根乗鞍湖への歩きでは村もあるのだが、時間も早いせいか・・・全く車にも人にも出合わなく過疎化が進んでいるなあ・・・と感じる。

乗鞍湖からはトンネルが幾度となくあるのだが、そのたびにザック後ろに点滅灯を付けたりヘッドランプを付けたり…国道 361 号なので結構なスピードで車が通過する…その音と風速には生きた心地がしなかった・・・非常に怖い。

そこからというもの、高原地帯だと言っても照り返しのアスファルト道はとても大荷物を担いで歩けたものじゃないなあ・・・と何度も何度も挫折しそうになる・・・交通機関を利用するとしてもバスが通るわけじゃなし、タクシーが通るわけじゃなし・・・ただただ悶々として脱水気味になりながらも上り下りの繰り返しが続く。

長峰峠を過ぎて、開田高原に着くころにやっと食堂風車を見つけて入り口まで行く・・・本日定休日の看板が・・・仕方なく再び歩き出す・・・ここまで車とすれ違ったのは5台ほどだ・・・村はあるのだが子供の姿は全く見かけない・・・どこも過疎が進んでいる。

地図を見ると2kmほど歩くとそば処高原食堂が・・・すごくお洒落な店で大盛そばと大めしを注文・・・う～ん、久々にお腹一杯に食べた気分だ。



そこからまた峠道で九蔵峠を登って下り・・・御嶽山絶景ポイントがあるが殆どが雲の中で今一つだった。

再び登りきって馬頭観音を過ぎて、木曾馬の里を通りすぎて地蔵峠にさしかかる・・・車は国道361号を通るので、これまた10kmほどはあるのだが全く車と出合わなかった・・・

また山間とあって木陰になって涼しさもあるので頑張れて、なんとか二本木の湯（温泉宿）へ・・・看板を見てガ～ン・・・ここも定休日だ(>_<)。



定休日とあってガックリ

最も当てにしていた場所が・・・がっくりと悔やんでも仕方がない・・・地図を見ると2 km先に民宿黒川荘が・・・最悪の場合はこのパーキングででもテントを張らしてもらおうとへろへろになりながらも歩き出す。

17時前・・・宿の女将さんが水やりをしていたので…突然ですが今晚泊めてもらえますか？・・・沈黙・・・お願いします…この時間だから夕食なしでもよければ…お風呂と布団があれば充分です…朝御飯は付けますのでと・・・この日はへろへろでテントを張る気が起らなかったのが本当に助かりました・・・感謝感謝です。



大変お世話になった民宿黒川荘

早速にビールを頂き、お風呂で行動着を洗わせてもらい…疲れた身体に最高の暖かいお風呂…足のケアもゆったりとした部屋で行えて贅沢にテレビも見られる下界の生活。

また8日ぶりの一ノ越山荘以来の布団でゆっくりと夢見心地で眠れる・・・しかし夕食は行動食で乾パン、チョコレート、干し肉にビール3本。

朝御飯は7時から・・・目が覚めるのは習慣で3時半・・・テレビがあるのでぼ～っと見ながら足のケアをしたり入念なパッキングをしたりして時間を過ごす。

7/29 (金) 晴 民宿黒川荘～中山道～木曾福島駅～駒の湯～木曾福島Aコース～
7合目避難小屋 **ウォルター・ウェストンが登ったコース**
累積標高差 1885m 距離 20 km 行動時間 8時間 07:30～15:30

朝御飯・・・炊き立ての地元の白御飯は本当に美味しく山盛り3膳いただき、本当に大満足で今日の地道歩きと中央アルプスへの活力源になった・・・感謝です。



本日の活力源になった朝御飯…美味しかったです…感謝感謝

07:30…さわやかな気分で5km先の木曾福島駅を目指して歩き出す。
 少しは街並みで出会う人々がみんな「おはようございます」と挨拶を・・・素晴らしい。
 子供たちも元気一杯である・・・いい街だ。

しかしながら、やはり田舎町とあってお目当てのコンビニやドラッグストアはこの中山道界限には全く見当たらない。

小さな薬局があったのでやっとのことで、足の肉刺ケアと固定テーピングテープを購入できた・・・この主人がまた早稲田山岳部出身で話に花が咲きとても激励を受けた…一期一会。



中山道界限にある無料の足湯

商店街ではあるが、食料を仕入れる店が全く見当たらないのでまたもや補給が出来なかった。

木曾福島駅辺りでもそれらしき店は見当たらない…駅交番で聞いても無いとのことだ・・・仕方なく駒の湯まで行けば食事もできて何か仕込めるだろうと緩やかなアスファルト道をテクテクと歩いていると・・・農家の方が「無人野菜販売所」でトマト4個入りがあと一袋だけ…200円…すぐに購入して1ヶにかぶりつく…久々の生野菜の匂いと味に酔いしれる・・・美味しい。あとは今日の活力源にとっておこうとザックにしまう。

10:15…駒の湯にたどり着いて、食事を…またしても時間が合わない…早すぎ…11時半からと…仕方なく土産物でカロリーのある饅頭や米煎餅を購入して行動食に備える。



駒の湯

駒の湯から木曾福島Aコースまでのアスファルト道がこれまた段々と登っていて炎天下の歩きにはとてもこたえる…汗が雨のように滴り落ちる…なんとかゆっくりとリズムをスローにして汗を抑えようとするが30度を超える気温では全く効果がない。

今日の予定である7合目避難小屋まで1Lの行動水は持つだろうか・・・不安がよぎる。



11:00…やっと登山道入り口に着いた。車は止まっていない・・・どうやら今日は私が最初ようだ。

スリッパから登山靴に履き替えて、行動食を頬張りながら、熊鈴を付けて準備OK!。さあ、ここから地図上4時間で避難小屋である。途中避難小屋手前の沢筋で水が補給できなければ体力的にも完全脱水になると思うので、その時は無理を承知でもそこから2時間の頂上木曾小屋まで行くと心に決める。

高度は登山口で1200m・・・避難小屋は2400m・・・1200mの登りである。普通なら2時間半ほどで登れる高度であるが、ここまでのアスファルト道の暑さで体力もかなり消耗しているのがわかる。

この登山道は最初からいきなりの急登・・・心拍数をあげないように・・・体力を消耗しないように小さな歩を繰り返して少しずつ高度を上げていく。

3合目から4合目へ・・・5合目から6合目へと・・・しかしここで悪い予感が的中・・・完全な脱水状態になってきた・・・脳は足を動かそうとするのだが・・・いかんせんその足が前に出ないのだ。体内の血液が濃くなりドロドロ状態になっているのがわかる。

身体が危険な状態になっている・・・こんな状態はトライアスリート現役時代に経験しているから自分自身の身体の不調具合は分かっている・・・木陰で休み・・・残り少ない

行動水と高カロリーのチョコとカロリーメイトを嚙じって心拍数を戻し、精神の冷静さを取り戻すことに全神経を集中する。

なんとか精神も安定して心拍数も落ち着いてきた・・・あと 30 分ほどで 7 合目避難小屋だ・・・賢一頑張れ！・・・と言い聞かせて足を進ませる。

その時、かすか乍らも沢水の音が・・・空耳ではない・・・地図上にも水場とある・・・あと少しだ・・・遂に沢の水にありついた・・・わずかに流れる水をゆっくりとボトルに汲む・・・そしてゆっくりゆっくりと喉に 1 L ほどを流し込む・・・血液を薄めてくれ・・・と祈るように時間をかけて飲む・・・喉から腹に入った水が胃壁を通してドロドロの血液が薄まっていくのを実感すると共に段々と活力が回復してくるのを体中がこたえてくれている・・・伊達に辛いアスリート生活を経験してきたのではないと己を奮い立たせる。

15：30…今晚と明朝の水 2L を汲みザックに入れて小屋に到着。

誰もいないと思っていたのだが、すでに福島 B コースからの 6 人パーティが滋賀県からきていて 1 階を占領していた。

2 階は空いていたので、そこにゆっくりとくつろいで、ジフィーズランチとカップ麺にお湯を注いでのんびりと夕食にありつく。水は充分にあるのでココアに乾パンとカロリーメイトを溶かし栄養を蓄える。

18 時頃シュラフに入って休んでいると、下から声がかかり…少し一緒に話をしませんか・・・アルコールも全てあるので・・・今晚は酒抜きだと思っていたのだが・・・久しぶりに日本酒をよばれて話も弾む…話題はすぐに私の日本縦断話に花が咲き激励を受ける・・・ここでも一期一会。



有志によって管理されている高度 2400m の 7 合目避難小屋
ソーラー電気、水洗トイレと至れり尽くせりの素晴らしい避難小屋である



7/30 (土) 晴 7合目避難小屋～木曽駒ヶ岳～将棋頭～西駒山荘～桂木場～小黒川溪谷
～伊那駅～スーパーアピタ～タクシーで市野瀬 (入野谷)

累積標高差 3570m ウォルター・ウェストンが下ったコース

距離 23 km + 22 km 歩行動時間 9 時間 05 : 00 ~ 16 : 30

小屋泊はテント等のパッキングがなくてスピーディーに朝の行動準備もはかどる。

朝食は昨夜の残りのジフィーズランチと味噌汁と乾パン。

段々と腰痛ベルトの締め込みが狭くなってきている・・・腹回りや上半身の筋肉や脂肪が
歩行エネルギーに代わっているのだろう・・・そのお蔭か足の疲労感は殆ど感じない。

滋賀県パーティはまだ朝食中だったので「お先に～、お互いに気を付けて」と挨拶を交
わし、5時に小屋から出ると、周りは薄いガスに覆われて幻想的な雰囲気だ。

ここから高度 500mほどの登りなので涼しいうちに、ゆっくりとしたペースで足を運んでい
く。

見上げればどこに登山道があるのか皆目に分からないのだが、足元からはちゃんとした
道が続いている・・・本当にこんな所に道を作ってくくださった方々には感謝感謝である。



可憐に咲き誇る高山植物が朝を出迎えてくれていて、ほどなく登っていくと玉乃窪山荘に着いた・・・まだひっそりとしたもので昨夜は誰も登山客はいなかったような雰囲気である・・・前を素通りして再び急登していくと、大きな石塔墓が幾つも並んでいる・・・その昔にこの場所で彫り込んで建てたものだろう。



中央アルプスではGWに山スキーで来たりして大変にお世話になっている頂上木曾小屋のオヤジさんに挨拶・・・腰も曲ってしまったが今だ健在で小屋を息子さんと切り盛りしている姿には感動ものです・・・コーヒーをよばれてしばし雑談。



中央アルプスは 2900m クラスの山並みが連なるが残念ながら今回の目標の 3000m 峰はないので木曾駒ヶ岳 2956m も写真だけ、スルーして北東方面の将棋頭方面へと足を進める。



展望なしの木曾駒ヶ岳山頂 2956.1m

駒ヶ岳神社を過ぎて岩稜地帯の馬の背を歩いていくと、8合目の分岐を過ぎる。新田次郎作の現実にあった遭難碑「**聖職の碑**」がしっかりと建っている。このルートは一度訪れてみたかったコースでもあり、両手を合わせる。

およそ 100 年前の 1913 年 8 月 26 日、中箕輪尋常高等小学校(現在、箕輪中学校)は、1泊2日の修学旅行登山で「駒ヶ岳」2956m を目指した。一行 37 名は、赤羽長重(ちょうじゅう)校長をリーダーに引率の先生 2 名、高等科 2 年生(今の中学 2 年生)の男子 25 名と、援助する同窓会員 9 名だった。しかし、急に動き出した台風に襲われ、赤羽長重校長と 14 歳～16 歳の生徒 10 名が遭難(1913 年 8 月 27 日)した。



聖職の碑

しばらく行くと、将棋頭山への分岐があるが、展望もよくないのでスルーして2年前に新築された西駒山荘へ・・・頂上木曾小屋のオヤジさんによろしく言っていると小屋番の宮下さんにその節を話ししばし雑談・・・10時前とあってカレーライスは出来なかったのでカップ麺とオデンをいただく・・・熱々のオデンはとても美味しかった。



きれいな西駒山荘

西駒山荘からはひたすらに長い長い下り・・・胸突き八丁・・・やっこ平・・・大樽避難小屋・・・このあたりで75歳のシニアの方としばし雑談…私は55年かかって日本300名山を完歩しましたと…私には興味がないが凄い人がいるものです。

大樽避難小屋から・・・馬返し・・・ちりめん坂と過ぎるとやっこ桂木場へ12:00・・・標高はまだ1300mもあるのだが樹林帯の木漏れ日から直射日光の炎天下では暑いという言葉しか見つからない。

時間的に中途半端なので登山口に人はいないので小黒川溪谷でスッポンポンになり水浴びをして、行動着も水洗い・・・スッキリとして・・・さあ、今から試練のアスファルト道歩きに備える。

予定では小黒川溪谷キャンプ場でキャンプと決めていたが、時間もまだ13時なのでひたすらに暑い暑いアスファルト道を歩き通す・・・当然に田舎道なので自販機などあるはずもない。



とにかく伊那の駅周辺まで行ってスーパーかコンビニで南アルプスの食料を仕入れなければ1週間の縦走がかかる南アルプスでは行動不可能になる。

しかし暑い・・・GPSで確認するとあと3km・・・たかだか3kmだが重荷を担いで炎天下を歩くのには1時間は要する。

時間もまだ十分なのでのんびりとしたものだが、暑さで朦朧として気持ちは焦るばかりだ。

予定では伊那周辺の公園でテントを張って明日に地蔵尾根から南アルプスへ入って松峰避難小屋で泊まる・・・としていたが、今の段階ではとてもじゃないがこの暑さの中を伊那駅から 22 km もアスファルト道を歩いて市野瀬まで行くのは考えられなかった。

予定日の市野瀬の入野谷旅館（31日）を今日（30日）に変更してほしいと愛妻に電話を入れて無事の確認を入れる・・・急なことで土曜日なので素泊まりのみになるとのことだ。

スーパーアピタで大きなザックを持ち歩くのは不便なので入り口の甘栗屋のオバさんに預けて買物をするのだが、干物のジフィーズなどは無かったが寒天雑炊があった…カロリーは低いのだが軽いので5ヶと小チキンラーメン、パンと靴下…それに今夜の弁当と明日朝の弁当を購入する…それと甘栗屋のオバさんに2Lのウーロン茶。



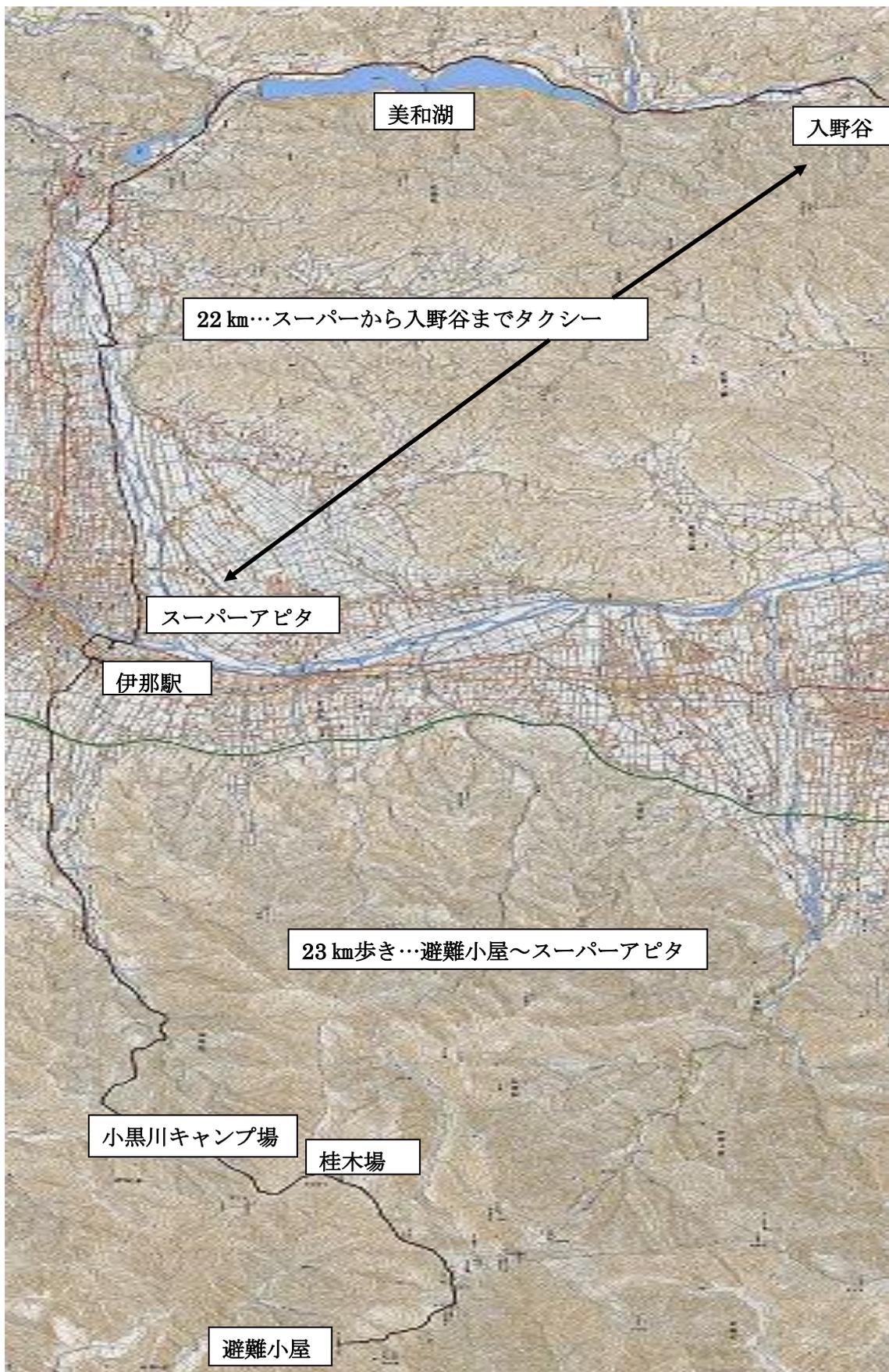
伊那の街が見えてきたがまだまだ先だ



甘栗屋のおばさん

伊那のスーパーから歩くのはこの暑さでは出来ないのでタクシーで移動することにする。今日は 22 km 歩いてきたが、やはりエアコンの効いた車での移動は快適だなあ…と下界の利便性にありがとう。 運転手さんがここが最後のコンビニですよ・・・と、ビールと肴を買い込み車内で今日もよく頑張ったと自分に乾杯！。





7/31 (日) 晴 市野瀬 (入野谷) ～地藏尾根～松峰小屋～仙丈ヶ岳～仙丈小屋

累積標高差 3120m

距離 15 km 歩行動時間 8.5 時間 05:00～13:30

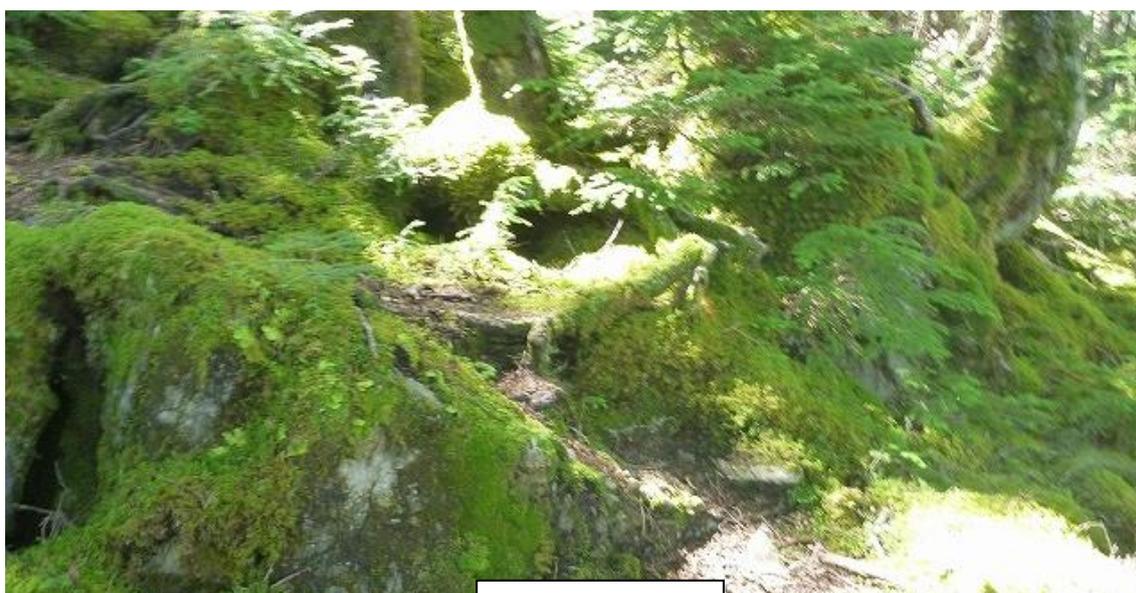
昨日はバタバタとした一日だったが、風呂に入れてベッドでぐっすりと眠れた。習慣で3時半になると目が覚めて、朝風呂に入って今日から後半戦の南アルプスだ・・・と言いかせて気合いを入れる。

5:00...入野谷を出て、ひたすらにアスファルト道を歩いて登山口まで・・・これがまた急な斜面で遠い・・・1時間もかかってしまった...朝早いので暑くもなくバテなくてよかった。

登山口では車が一台止まっていた・・・途中ですれ違った人だが山頂ピストンの方で、夜中の2時にスタートしたと言っていた...山頂付近で合ったので明るい内に帰れるのだろうか心配する。



地藏尾根の登山口



苔むした樹林帯

地藏尾根は TJAR(トランスジャパンアルプスレース) にも使われるコースで水場もなく、地図上で9時間もかかるハードな尾根である。

実際に急登急登の連続でペース配分を間違えればいくら樹林帯で涼しいと言えどもバテてしまうコースである。

松峰小屋を過ぎた辺り 2100mで後ろから熊鈴を鳴らしながら 40 過ぎの若者が追いついてきた…お互いに「何時に出たのですか」と「私は 6 時」、「彼は 6 時半」…彼は軽装で山頂ピストン派で足取りも軽くすぐに見えなくなった。

2250m付近からは見上げるほどの急登が始まり、徐々にシラビソ帯からハイマツ帯に変わってきて視界も開けて、前仙丈、仙丈ヶ岳が見えだしてきた・・・素晴らしい光景だ。



ここからは1時間もあれば行けるだろうと、景色を眺めながらのんびりと足を進めていく。

仙丈ヶ岳は今年の元旦に雪山装備で登っているのだが、この地藏尾根からは初めてなので、こちら側からの仙丈ヶ岳の雄大な光景は前仙丈を従えて、大仙丈ヶ岳を肩に素晴らしい山並みである。

ほどなく、仙丈小屋と山頂との分岐に着く・・・ここで若者とすれ違い互いに無事のエールを交わし、ザックをデポして山頂へ向かう。

13:30 小屋に到着・・・日曜日とあってか登山客も一杯である・・・以前はここにもベンチがあったが、今はない。今日は小屋泊なので夕ご飯を腹一杯になるまでご飯をお代わりして炭水化物を蓄える計画である。





8/1 (月) 晴/雨 仙丈小屋～仙丈ヶ岳～大仙丈ヶ岳～伊那荒倉岳～野呂川越え～
 仙塩尾根～三峰岳～間ノ岳～農鳥C P～西農鳥岳～農鳥岳～農鳥C P
 累積標高差 2950m

距離 17 km 歩行動時間 11 時間 04 : 30～15 : 30

天気予報では今日から 3～4 日ほど、午後からゲリラ雷雨が来たりと天気は午後からは不安定になるようだ・・・朝の好天気を見るとそんなことはあり得ない快晴なのだが…。

朝御飯は抜きにして早出をする・・・昨夜の小屋では私と同じく日本海から太平洋への縦走登山をしている方…大久保氏 69 歳と出会う・・・彼は私のような一筆書きではなく繋ぎ繋ぎで縦走をしているが、今回は私と同じく聖岳まで縦走して…南へ…大無間山登山口田代温泉～接阻狭温泉へ抜けると…69 歳での限らない挑戦者である。



甲武信ヶ岳方面からの御来光…仙丈ヶ岳付近から

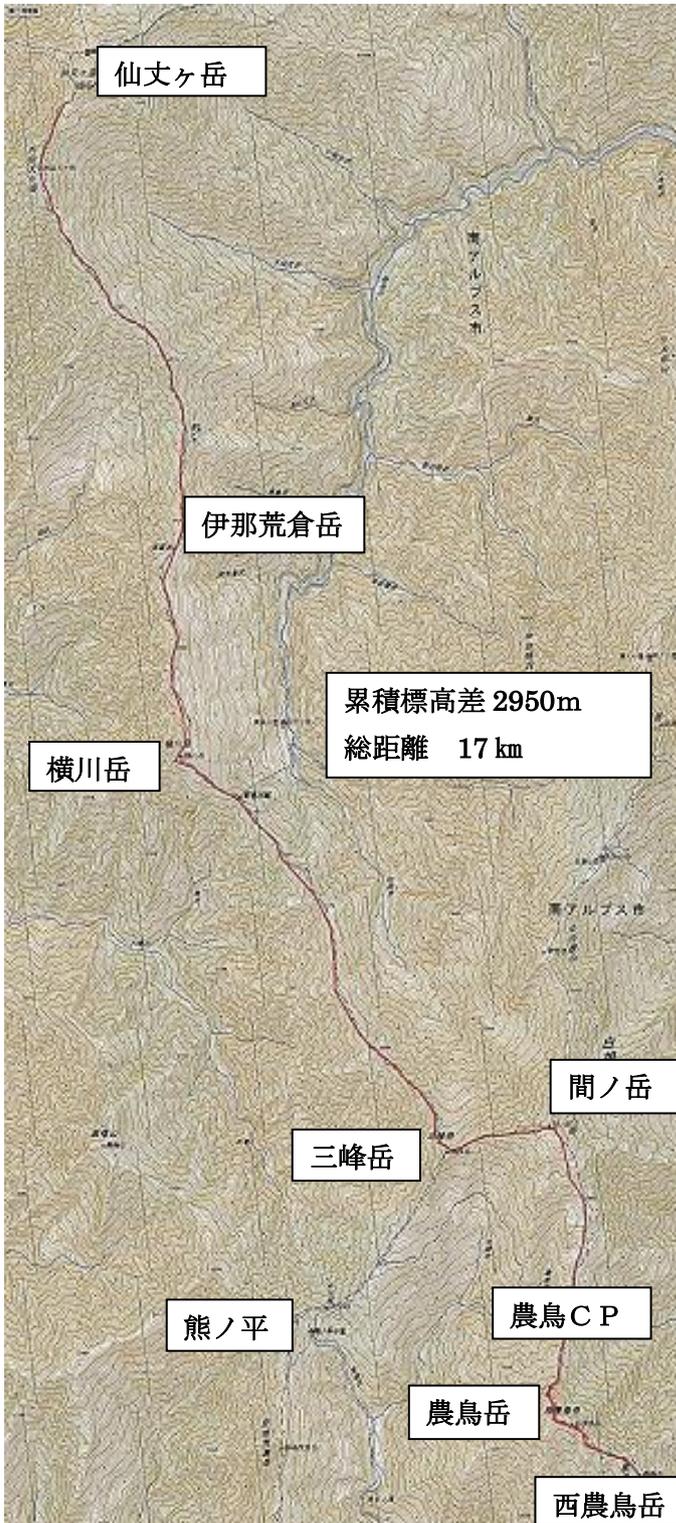
ここからの縦走者は私と大久保氏だけのようで、大仙丈ヶ岳方面への登山者は見受けられない。



大仙丈ヶ岳の岩稜尾根を登って降りると、仙塩尾根の南アルプス特有のハイマツ帯の尾根道に入っていき湿地帯の窪地が出てきて私のようなローカットシューズは歩きにくいのが難点だ。

大きな山ブキ (マルバタケブキ) の群生林を過ぎると、またまた湿地帯が続く。樹林帯の中に伊那荒倉岳の三角点があり、高望池らしきものがあるが水は枯れている・・・水さえあればここは絶好のキャンプサイトになる。

横川岳からいきなり左へ直角に曲る登山道だ・・・ここから野呂川越えまでは下りの連続だ・・・当初の計画ではここから両俣小屋へ降りてキャンプ予定だったが、石野氏とも相談してそのまま仙塩尾根を南下して三峰岳を登り左へ折れて間ノ岳から南下して農鳥へ行くほうがよいだろう・・・とのアドバイスを受けている。



アドバイス通りに、仙塩尾根を縦走する。

このルートはあまり歩かれていないので、注意深くテープを見失わないように樹林帯や灌木帯の中を歩いていく・・・ここまで7時間ほど歩いているのだが、誰ともすれ違わない・・・静かな山旅である。

天気予報が当たってきたようだ・・・三峰岳に近づくと長野県側の沢の上部でもの凄い雨が降っている…これはすぐにこっちにもやってくるだろうと、すぐにザックを降ろしてカップを着込んでザックカバーを付けると・・・直ぐに大粒の雨が降り出し瞬く間に本降りとなってきた。

三峰岳のクサリの岩稜帯を滑らないように登ると、山頂 2999mだ。そこから左へ直角に折れてしばらく行くと間ノ岳 3189mだ。

そのまま南へ1時間ほど下ると農鳥小屋キャンプ場に 13時半に着いた。

農鳥小屋のオヤジは噂通りにヘンクツで自分勝手な変わり者であった。



木漏れ日が差し込む樹林帯



三峰岳へのクサリの岩稜帯



農鳥小屋と間ノ岳



テン場には2張りだ

テン場に到着とたまたまか・・・雨も止んできたので急いでテントを設営する。そして、時間も早いので空身で西農鳥 3051mと農鳥岳 3025mのピストンを目指す。当然に誰にも合わない・・・ガスガス帯の登山道を滑らないように速足で登ったり下ったりが続く・・・やっと西農鳥岳が現れた。

しかし肝心の農鳥岳はガスで展望が見えない・・・地図では40分とあるがガスの中なので距離感が分からないので疲れも倍増するが程なく農鳥山頂に着いた・・・山頂には大町桂月の歌碑が祭られていた。



西農鳥岳 3051m 12座



農鳥岳 3026m 13座

農鳥岳をピストンでテン場へ帰る途中から再び本降りの雨に見舞われてローカットシューズは靴下が濡れて散々である。

テントに帰ってからは忙しく、お湯を沸かしてプラティパス 1 L に入れてお湯アイロンで靴下を乾かす作業だ。

夕食は寒天雑炊にナメコ汁にチキンラーメンと欠かせないビールで乾杯。

**8/2 (火) 晴/雨 農鳥C P～間ノ岳 3189m～中白根岳 3055m～北岳小屋～
北岳 3192mを空身でピストン～農鳥小屋～
三国平トラバース道～熊ノ平小屋
累積標高差 3095m
距離 17 km 歩行動時間 8 時間 04 : 30～12 : 30**

夜中の 2 時頃まで雨はテントを叩いていたが、それからは止み静かになって寝込んでいたようだ。

4 時起床で行動食とカップと水をサブザックに入れてここから 6.5 km の北岳をピストンして、帰ってきてからテントをパッキングして熊ノ平小屋キャンプ場まで移動だ。

ヘッドンを付けて空身同然なのでサクサクと農鳥C P から間ノ岳までの急登を登っていく。間ノ岳に着くと素晴らしい景色をプレゼントしてもらった。



間ノ岳 3190m 12 座から北岳 3193m と甲斐駒ヶ岳 2967m が並んで見える
この後 30 分もしないうちに全てがガスガス状態になり展望は無くなってしまった



中白根 3055m 15 座



北岳小荘

間ノ岳から中白根山 3055mまでは歩きやすく空身ならば散歩道のような所でサクサクと歩けるが、山荘から本峰北岳 3193mへはなかなか手ごわい・・・急登の岩稜地帯でクサリ場、ハシゴ場が連続して大荷物ザックを背負っての縦走になればへろへろになっていたことだろう。

北岳からのピストンで北岳山荘でカレーカップ麺を頂き、チョコレートや米菓子を仕入れて行動食を増やした。



北岳山荘からの間ノ岳ピストンの登山者とすれ違いますが展望は無かったと・・・朝一番は素晴らしい景色でしたよ・・・と言うと残念がっていた。

帰りも快適に飛ばして農鳥CPに帰ってきたのが10時過ぎだ・・・石野氏のアドバイスは空身でピストンがいい・・・その通りであった・・・往復5時間ほどだった。

テントをパッキングして、農鳥沢と三国沢のトラバース道…ガラガラ道をずり落ちないように大きく湾曲していく。

途中の三国沢が程よく水量が出ていたので、いつものように行動着を水洗いして身体を水拭きしてサッパリとする。

1時間半ほどでトラバース終了して井川越えで下って行った所に熊ノ平小屋が見えたのだが、いかんせんまたまた急に空が泣き出してきた・・・すぐそこなのだが雨脚が激しいのでザックカバーとカップを着込んで小屋へ逃げ込む。

しばらくしても全くに止むような気配ではないので、今日は早いが小屋泊にすることにした・・・明日は三伏峠キャンプ場までとして・・・2食を付けてもらいゆっくりとすることにした。



12時半なので客は誰もいないだろうと、思っていたが何と！・・・見覚えのある顔…大久保氏がいるではないか、これには驚いた…すでに通過しているものと思っていた。

聞くと、今日は雨予報だから朝から諦めて停泊に決めたとのことである。

時間も早い、カレーライスやオデンやお菓子でビールとウイスキーで腹ごなしをしながら雑談が始まる。

そうこうするうちに続々とお客さんが雨に打たれて入ってきて満員状態になってきた。

中でも仙丈からの縦走組が2人（一人は素泊まり派の生越さん）来た。もう一人はテント泊だが私同様に雨なので小屋泊まりだ。



北岳付近のお花畑

8/3 (水) 晴/雨 熊ノ平小屋～北荒川岳～塩見岳 3047m～本谷山～三伏峠C P
累積標高差 1950m
距離 14 km 歩行動時間 6 時間 05 : 00～11 : 00



今日の天気予報も午後からは雨だ。もうこらえてほしい。

熊ノ平小屋は朝御飯が4時半だったのでしっかりといただく・・・熱々のご飯をおかわりできるのは小屋泊の特権である。

縦走組の2人(大久保氏とテント泊)は4時にスタートしている。また生越氏は5時半にでると・・・、今日も私を含めての4人の縦走組は同じ三伏峠小屋までの予定である。



熊ノ平小屋



御来光



久しぶりの富士山…最終工程である

ほんとに朝はいつもいい天気になって雨が降るとは思えないのだがなあ……。
シラビソ樹林帯の中の湿地帯まじりの登山道でシューズを泥濘に取られないようにWストックでバランスを取りながら木漏れ日差し込む中を心地よく歩いて行く。

新蛇抜山手前の小岩峰で竜尾見晴とあるがそこから覗くともはやガスで展望なしであった…残念。しかし、天気が早くも悪くなってきた傾向だろうか……。

そこからハエマツの間の道を登って登って行く…雨の日は間違いなくこの道は沢状態になっているのだろう。

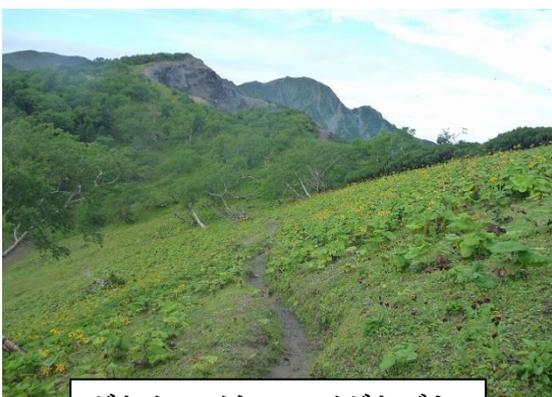
しばらくして、北荒川岳に着いて、少し行くと大崩壊場に…15年前はここにテントを張ったのだが、今は禁止になっている…それもそのはずでもの凄く荒れていて記憶の中では山の半分くらいが無くなっている…全くに違った光景になっていた。ここから見る塩見岳双二峰は大迫力ものである。ここから再びハイマツ帯の緩斜面をが続き、ダケカンバと山ブキ(マルバダケブキ)の黄色い花が癒してくれる。



塩見岳をばっくに



15年前に張ったテント場



ダケカンバとマルバダケブキ



塩見の登りから後ろを振り返る

しばらく行くと北俣岳、蝙蝠岳の分岐にさしかかる。この稜線はのちに行く策ヶ岳や布引山が見えるのだが、午後から再び雨模様なので塩見岳への先を急ぐことにする。

急斜面を上り詰めると、塩見岳の東峰 3052m・・・少し離れて西峰 3047mに上がる。



塩見岳 3052m、3047m 17 座

下りは浮石に注意してザックが岩に当たり押されないように慎重に降りていく。天狗岩を過ぎて 30 分ほど下ると新築された塩見小屋…へりで荷物を降ろしたばかりで小屋のスタッフたちが慌ただしくしていたので小屋前をスルーしてハイマツ帯に入っていく。



そこからドンドンと下り沢まで…ここにも小さなテン場がある。再び登り詰めると、本谷山、そして三伏山に着く。

そこから三伏峠小屋は見下ろせて 11 時に着いた・・・ここで昼食のカレーライスをいただいて、高山裏避難小屋キャンプ場へまでは十分な時間はあるのだが、今日も午後から雨予報なので無難にここ・・・三伏峠にテントを張ることに決める。

テントを張って、いつものようにカレーライスとビール、ウィスキーを飲みながら、今日、明日の行程を筆記していると、縦走組が 3~4 時間遅れて次々とやってきて、山姉さんも含めて盛り上がり縦走話しに花を添えてくれていた。



三伏峠小屋



日本縦走の大久保氏 69歳



定番のカレー、ビール、ウィスキー



縦走組の生越氏



差し入れ貰ったお姉さん達



8/4 (木) 晴/雨 三伏峠C P～烏帽子岳～小河内岳～高山裏避難小屋～
荒川前岳 3068mから荒川中岳 3083m～悪沢岳 3141m～
丸山 3032mを空身でピストン～荒川小屋C P
累積標高差 3800m
距離 17 km 歩行動時間 9 時間 05 : 00～14 : 00



昨夜は本降りにはならなかったが、やはり終始小雨が降り続いていた…当然に毎日毎日テントは濡れて重くなっている。



朝一番はいつも素晴らしい天気なのだが・・・

今日の天気予報も同じく午後から雨だ・・・一体どうなっているんだ南アルプスは？・・・まあ、ほぼ予定通りに行動できているからいいものだが・・・天気が持っていたならば1日は短縮できていただろう。

今日は石野氏の甥っこの八代醒くんパーティが千枚小屋までくる予定だが、私は一歩先を先行していて今日の泊まりは荒川小屋キャンプ場である。荒川前岳から丸山までのピストンするのだが、たぶんその時間までにはまだ千枚小屋にはたどり着いていないだろう。

三伏峠キャンプ場からは、右側（西）山が半分崩れているのかと言うほどにガレていて下を見れば吸い込まれそうな所が幾つもあるのには驚きである。

15年前に縦走したときにはこんな場所は無かった・・・やはり南アルプスは雨が多いせいで山も地盤が緩んで崩壊してしまうのだろうか・・・大自然の驚異を感じる。

ガレ場を過ぎると、今度はお花畑でシシウドや紫のマツムシソウがとても可憐である。ほどなく烏帽子岳に着く・・・前方には小河内岳と荒川岳の主稜線が見える。

ここからも西側はガレているがハイマツ帯がブロックしてくれているのでそれほどに危険ではない。前方には綺麗な小河内岳避難小屋があるが、スルーして先を急ぐ。

小河内岳山頂から登山道は何処にあるのか分からない平坦な山頂だが、地図とGPSで確認すると大日影山や板屋岳への緑の稜線が見えるがガスっていると注意が必要である。



烏帽子岳から小河内岳稜線



山の半分が崩壊している



小河内岳から高山裏避難小屋までは2時間ほど登ったり下ったりだが、高山植物が群生していて疲れも癒してくれる。

この高山裏避難小屋は15年前にキャンプを張った場所なので鮮明に記憶に残っている・・・この時は息子の貴司と光岳から甲斐駒ヶ岳への縦走で来ていて百間洞山からだった…小屋主人が事前に情報を得てくれていて小屋前の一番いい所を確保してくれていたの、挨拶にでもと思っていたが、水場に行っているのか誰もいなかったのが残念である。



緑に包まれている高山裏避難小屋

この高山裏避難小屋からは樹林帯のトラバース道を過ぎると、いよいよ今日の確信部の急登が始まる・・・道標からはゴーロ帯の急斜面でつづら折れをしながら徐々に高度を上げていくが、この頃から上部はガスってきて何も見えなくなってしまった。



荒川小屋まで3時間



急登のゴーロ帯

登り詰めると今度はまた崩壊地帯である。踏み跡を確かめながら慎重に足を進めていく。しかし、どうしてこんなにも山が崩壊してしまうのだろうか・・・本当に自然災害は怖いものである。



どちら側も恐ろしく崩壊している

13時・・・荒川前岳 3068mにたどり着き、ザックをデポする。

さあ、「行くぞ～」と、気合を入れていると団体のツアー登山者が「元気ですねえ～、どこへ行くのですか?」、「千枚岳の手前の丸山までピストンです」、「え～っ、今来た道です…それを往復ですか?」、「空身なので軽く飛んで行ってきます」、「彼女たちは前岳をピストンだ」。

荒川中岳 3083mまではすぐに着くのだが、それから荒川東岳（悪沢） 3141mまではガスっているせいもあり行けども行けども辿り着かない・・・結構な急斜面のガレを登るとやっとな悪沢岳だ。少しガスも晴れて丸山が見えた・・・文字通りの丸い形をしている・・・しかし、ここからは一変してデカイ岩がゴロゴロと続いているのでとても歩きにくいのだ・・・ここで 3000m峰 4 座をピークハントして 21 座目だ。



前岳 3068m



中岳 3083m



丸山 3032m



荒川東岳（悪沢岳） 3141m



中岳避難小屋（小屋番は滞在）
有料小屋なのだ

ピストンして帰るとまだ楽しい彼女たちは前岳から帰ってくるころだった・・・のんびりと前岳で昼食していたようだ。「もう、帰ってきたの～」と、「はい、今から荒川小屋まで行きます」と言ったら、「私たちもで～す」と、「では小屋で」と、別れて下って行く。

そこからは、ネットがしてありお花畑を動物に食べられないようにして柵をしているようだ。その中は本当に素晴らしい花盛りでカメラとビデオで忙しくて一步が遅くなる。



お花畑をカメラに収めながら荒川小屋へ向かっていると、またまた雲行きが怪しくなってきた～・・・ここから小屋までは30分も掛からないのだが・・・ポツポツ・・・いつもの前座が始まったと、急いでザックカバーとカップを着込んで備える。

案の定、直ぐに本降りとなりだし・・・またかあと・・・これだけ毎日毎日午後から降られると免疫も備わってくるというものである。

14:00・・・小屋に着いたが土砂降りなので小屋泊にしようかと悩んだが、小屋は今でも一杯で、これから来る団体の彼女たちも入れれば、超満員になるのは目に見えている。

また今夕のご飯はカレーになりますとのことだ・・・まあ、超満員になればどこの山小屋もカレーになるのはわかっているので、諦めて雨の中をテント設営することにした。

設営を済まし、定番のカレーライスを注文してビールで食堂でくつろいでいると、にぎやかな彼女たちがやってきて「これ食べて、あれ食べて」と親切に・・・当然に遠慮なくいただいて縦走話にまたもや花盛りとなる。

そうこうしていると、縦走組に生越氏が・・・彼は素泊まり派なので別棟での待遇?・・・これが本当に凄いな別荘みたいな棟なのだ・・・誰も同室はいなくて快適そのもの・・・しばし酒を飲みながら雑談する・・・私は雨も小雨になりテントへ・・・。

**8/5 (金) 晴/雨 荒川小屋CP～小赤石岳 3081m～赤石岳 3120m～百軒洞～兎岳～
聖岳 3013m～聖平小屋CP
累積標高差 3350m
距離 14 km 歩行動時間 9.5 時間 05:00～14:30**

昨日は石野氏の甥っこの八代醒くんパーティが千枚小屋に泊って今日は荒川三山、赤石岳に登ってくるとの情報が入っていたが、どうもここ等辺りは携帯電波が繋がらなくてお互いに何処にいるのか分からないのが難点である。

しかし、私は今日が荒川小屋から赤石岳を目指して、聖岳に登り聖平小屋キャンプ場までの長丁場であるので、私のほうが一歩先を進んでいるので会えないだろう。

また、我が山友の大倉氏が昨夜、加古川から寝ずの運転で雨畑まで来て、今朝から布引山～策ヶ岳～トラバース道～樫島までの私の最終日の逆コースで来ると昨日にメールが入っていたが、これもまた電波悪しで繋がらないので定かではない。

荒川小屋の朝は早く、3時ごろからざわついていた。

私も5時にはスタートでき、いつものように朝方の素晴らしい天気の中をすがすがしく歩いていく。



荒川小屋をあとにして…荒川三山稜線から御来光



大聖寺平から小赤石岳を見上げる・・・朝一番からの急登が始まる。



小赤石岳 3081m

小赤石岳から少し行くと、樫島への分岐がある・・・今日、八代醒くんはこの分岐を1時間ほど下った所の赤石小屋へ泊る予定なので、まず会えることは無いなあ・・・差し入れも持参してきていると聞いていたのだが・・・残念。

そこから少々登ると赤石岳 3120mの頂だ。

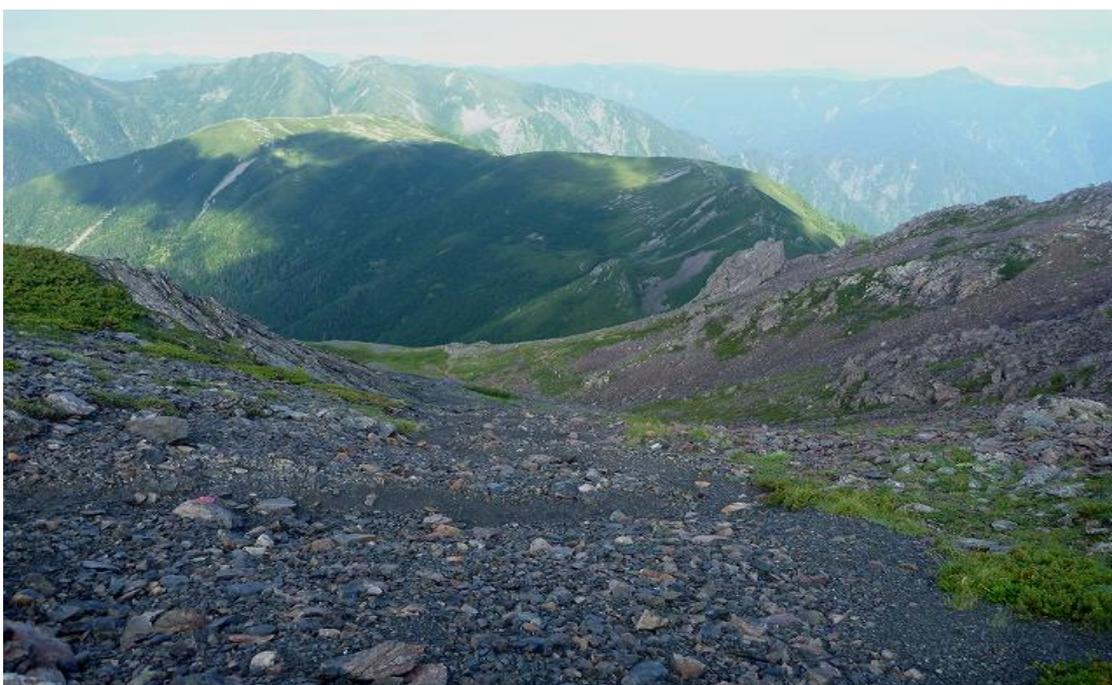


小赤石岳 3081m



赤石岳 3120m・・・生越氏と・・・右後ろは赤石岳避難小屋

赤石岳からは大斜面のトラバースをしたりしてどんどん下って、気持ちのいい岩稜尾根歩きがあり、緑の馬の背からは兎岳や聖岳がド〜んと勇姿を表している。



ザレ場を下り岩稜尾根を歩き緑の馬の背へ・・・

ほどなく百軒平に着く。百軒と言わずともそれ以上にものすごい広いのんびりと休憩できる場所である・・・しかし、いつものごとくスルーしていく。

再び下って沢まで降りると、百軒洞山キャンプ場があり百軒洞山の家がある。ここにも15年前にテントを張ったのだが、こんな綺麗な場所ではなかった記憶がある。小屋で食事をしようと思っていたが、時間が早すぎてまだ出来ないとのことだった…残念。



百間平から…右から…大沢岳 2819m、中森丸山 2807m、兔岳 2818m



整地されたテント場



百軒洞山の家

ここからトラバース気味に登りが始まる・・・樹林帯を抜けると、中森丸山 2807mへの急登が始まる。

登りきると、再び下降して小兎山 2738mへ・・・また降りて兎山 2818mへと連続して登り降りの連続である。兎山山頂でまたまた雨が降り出してきた…またかよお…とカッパの上とザックカバーだけをする。



ライチョウ



兔岳への登り



兔岳からはややこしい岩稜帯やハエマツ帯で道も分かりにくいし、雨で濡れて、赤石山脈独特な岩肌…濡れて岩稜が赤く染まって異様な雰囲気である。

前から高校生の登山部であろう…デカイザックを背負って 20 人位の学生が引率の先生に励まされて登ってきている…へろへろになっているが「頑張って！」と声をかける。

「百軒洞山はこの兔岳を登ればすぐだよ」。ちょうどここが聖兔のコルになっており、どちらも登りになるのだ。

聖岳は前聖岳 3013m と奥聖岳 2982m を長嶺部に持つ山であるが、今回の目的は 3000m 峰のみであるから主稜線の前聖だけをピークハントする。しかし、登れど登れど山頂に着かないと思っていたらやっとのことで飛び出した・・・ここが山頂か！。



荷物は全くに減らない…デカいなあ…

南アルプス最後の 3000m峰 24 座をピークハントだ

山頂からは、高低差 750mの急坂のつづら折れを2時間かけて下りやつのことで今日の
停泊地である聖平小屋キャンプ場へ……。



ボロボロになった小聖岳の標 2662m



私の張ったテント場

しかし、もう少しの所でまたまた大粒の雨が・・・すぐさま土砂降りとなってくる。登山道中ではあまり人には合わないのだが、山頂や小屋に来ると溢れんばかりの人ばかりである。

聖平小屋は登山基地の樫島からの中継地とあって14:30に着いたが、早くも満員状態であった。

小屋で受付を済ますと、入り口に「フルーツポンチを置いてありますので、どうぞ」と、疲れた身体には最高のご馳走でとりあえず、ビールを飲みながら3杯もいただいた。くつろいでいると、雨も上がりだしたので小屋の真下の絶好の場所にテントを設営する。

何処のテント場でもそうであったが、トレラン風やアスリート風の登山者は必ず、私のオニドーム1を、「見させてください」と興味深々である。「少しインナーが結露するが居心地は最高ですよ、乾燥重量も1.3kgだし気に入っている」、と言えば「やはりカミナドームよりいいねえ」と、みんなが納得していた。

この夜は本当に大倉氏は入山しているのだろうか・・・と期待が膨らんでほとんど眠ることはできなかった・・・それよりもやはり昨日今日と累積標高差3000mを越えているので身体も疲労度がピークに達していたせいもあるのだろう。

明日はのんびりと樫島まで下りオンリーなので、ゆっくりとスタートしても昼には到着するだろう・・・天気もいよいよだし、早めにテントを張って昼寝でもしようと・・・夢うつつで朝を迎えた。

8/6 (土) 快晴 聖平小屋CP～聖沢東へトラバース道～聖沢大橋～赤石ダムを北上～樫島登山基地CP

累積標高差 1450m

距離 9 km 歩行動時間 4 時間 05:30～11:30

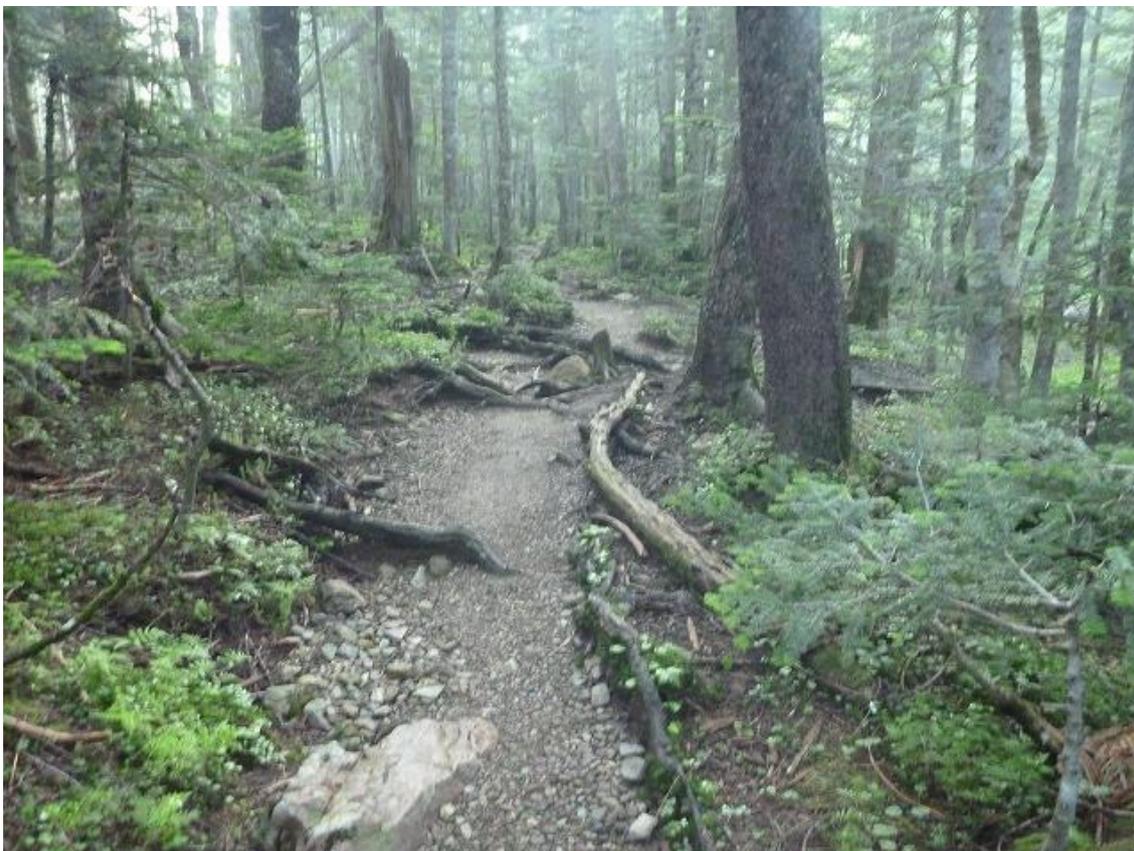
いつものように、朝から快晴である。縦走組の生越氏は私がパッキングしている5時に出て行った。

今朝も3時前位からごそごと物音がして私も起きる・・・残りのジフィーズやココア、寒天雑炊を朝食にして、行動食のみになった・・・計算通りに食料も消化した。

後は、登山基地樫島や、雨畑で購入すればよい。

小屋やテント場ももう、ほとんどの人が発っている・・・ここから聖岳へ行くにしても早出は当然だろう・・・距離よりも高低差がきついのだ。

水量の多い聖沢沿いに登山道はついている・・・また樹林帯なので日差しも木漏れ日で爽やかである。



樹林帯を過ぎると、今度は急坂になりつづら折りで高度を下げていく…この辺りから樫島からの登山者とすれ違うようになる。

聖沢大橋を渡って、しばらく行くと・・・前から大倉氏が・・・やっぱり来てくれたんだ・・・思わず感涙・・・彼が山の神に思えました・・・やはり精神的にも寂しい気持ちを抑えきれなく本当に嬉しかった。



もの凄く揺れる聖沢大吊橋

彼は自分の登山に来たのではなくて、私のサポートに来てくれたのだ…この男同士の堅い絆に、生越氏も驚いて喜んでくれていた…「どこの所属の山岳部ですか?」、「WhiteBirdです」・・・「聞いたことないなあ。」　それはそうですよ…「ハワイアイアンマンに出場した元トライアスリート軍団ですからね…30年来の並みの絆じゃないのですよ」と言うとう理解してくれたようだ。

大倉氏に色々と行動食をよばれて、再びに樫島まで歩き始める。
危なっかしいトラバース道をグネグネと過ぎると聖沢登山口へ降りる。
私はそこからスリッパに履き替えて東俣林道を北上・・・暑い暑い林道歩きである。

途中の赤石沢橋上で3人で記念写真を・・・



樫島は登山基地ではあるが、上高地の登山基地とは全く違って、観光客は全くいないといっても過言ではない。　リゾートホテルの泊まり設備がないのだ。

とりあえず、この3日間は家族や山仲間に連絡が取れていないので、受付で衛星電話を借りて愛妻に無事に大倉氏とも合流したことを伝えて、石野氏に連絡を繋げてほしいと伝言する。

今日は久しぶりにほんとにいい天気である・・・テント場も広大なフラットの芝生上で素晴らしいところである。　テントを張ってザック内の濡れ物を全て出して久々に干して、横の川（大井川）で2人スッポンポンになり水遊びでたわむれる。

テン場に帰る途中でもの凄く大きな野イチゴを発見・・・両手一杯に摘んで生ビールの当てにして・・・カレーライス、ハンバーガー、ポテトフライなどをどんどん空腹に詰め込んでいく・・・大倉氏がビールをプレゼントしてくれたおかげで2人とも昼から夕方まで飲み続け徐々に張り詰めた糸が切れたようだ。

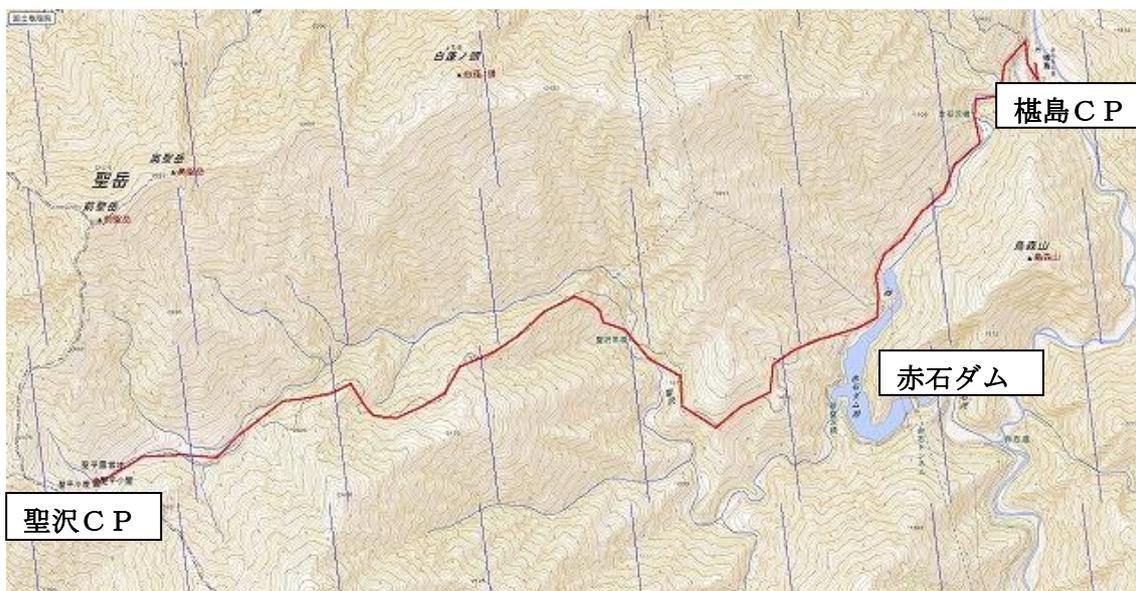
久しぶりに風呂にも入れて行動着を洗濯して身も着物もスッキリとした。
生越氏とはこの樫島でお別れだ・・・ここから東海フォレストのバスで東京へ・・・。



標高も 1120m と涼しく、テント場も最高である



食堂で徐々に下界に戻ったようにくつろぐ



8/7 (日) 快晴 榎島登山基地CP 1120m～東へトラバース道 1857m～笹ヶ岳 2629m
 ～布引山 2584m～雨畑温泉 450m 累積標高差 4500m
 雨畑から本栖湖～富士吉田口下のビジネスホテルまで大倉号で移動
 距離 20 km 歩行動時間 11.5 時間 05:30～22:00



さあ、今日は大倉氏が一昨日来てくれた道を引き返す・・・もの凄い長い距離の20km・・・
 累積標高差 4500mを歩くのだ。一昨日の大倉氏は寝ずの運転をしながらも、12時間半も
 かけて榎島まで来てくれたのだ。

今日はまた、そのコースを引き返す労力を払ってくれる・・・感謝感謝である。

登山道からいきなりの急登で心拍数が上がるのでペースを落としてほしいと・・・。

深い樹林帯の中なので木漏れ日も差さなく、薄暗い登山道で今が何時か分からないくらいだ。



登りきると、そこからトラバースが始まる・・・沢を8つ位渡り野を越え山を越えとはこのことだろう・・・長い長いトラバース・・・急斜面に道幅30cmもないところが続く。滑って落ちれば谷底までは止まらないだろう。

2時間ほどこのトラバースを終えて、やっと幅の広い枯沢へ降り、対岸の草地の取り付け点を探すのだが・・・大倉氏はここで逆コースなのでこの入り口が非常に分かりにくかったと言っていた。

草付きを登ると絶好のテント場があった。ここからシラビソ樹林帯の中を行くと再び枯沢に降りて20~30分ほど登り、リボンテープ通りに右岸に取り付いてシラビソ樹林帯の策ヶ岳への主稜線へ取り付く。30分ほど上り詰めると策ヶ岳2629mにたどり着くが、よくまあこんな道を作ってくれたものだと感心と感謝である。

策ヶ岳からは東に富士山が見えたり隠れたり・・・西には聖岳、赤石岳の稜線が・・・素晴らしい展望である。

少ししたら、トレランナーが雨畑から4時間で登ってきたと...考えられないスピードである・・・私の重荷を担いで降ろしてくれ～。



策ヶ岳からは布引山へは、降りるでもなく登るでもなく長い長嶺線でダレてくるころにやっと布引山へ着く。

布引山 2584mから雨畑 450mまでの約 2000m以上のの激下り・・・姫路の雪彦山の下りが 2000m続いていると言っても過言ではないだろう。
大倉氏はこの激登りを来てくれたのかと思うと本当に感謝感激で心底ありがとう・・・。

3時間半くらい下ってやっとのことでダケ沢の渡渉地点へ・・・疲れた～・・・行動上着を水洗いして冷たい水を飲み干しあと 3 kmのトラバースに備える。

ダラダラと長いトラバースを終える頃にトンネルが見えてくると、やっと駐車場が見えてきて大倉氏の車を確認したときは、もはや歩く気力は無くなっていた。



山の神



変わったトンネル



当初の計画では雨畑温泉で泊まり、二日かけて本栖湖まで歩き、富士山へ二日かけて登って、三日目に太平洋へゴールする予定だったが、乗鞍岳から中央アルプス、中央アルプスから南アルプスへのアスファルト道の下道歩きで炎天下の苦痛を味わっているのもはやその気力は切れてしまっていた。

雨畑温泉で疲れを癒し、カレーライス、温泉卵、ポテト、ビールを平らげて鋭気を養う。大倉氏は疲れ果てて冷やしうどんと冷奴しか喉を通らないと・・・本栖湖へ移動中に石野氏や福迫氏に電話してアドバイスをもらい、「もはや気力が失せた」と言うと、頑張って車で吉田口まで行って明日に最後の富士山をアタックした

らいいと…その時、大倉氏の車内電話に横小路氏から、加古川から寝ずの運転で今からそちらへ行くので、明日の富士山はフルサポートすると言ってくれた。

何という絆であろうか・・・また感涙してしまった。

本栖湖で富士山を仰ぎ見て写真に収めて、吉田口辺りのコンビニで食料を仕入れて、ビジネスホテルを大倉氏に予約してもらおう・・・ザックも彼の軽量ザックと取り換えて、明日の行動に最小限の必要な物だけを詰め込んで大倉氏と別れた・・・**20:00**

彼は明日からは仕事があるので寝ずの運転で帰っていった。

私は風呂に入り一人になりこの短時間の出来事を思い出していると涙が止まらなかった。

部屋で入念なテーピングをして明日に備えた。



本栖湖からの夕方の富士山・・・肉眼ではヘッドで登っているのが見える

8/8 (月) 快晴 **富士吉田ホテル～吉田口手前～バス移動～吉田口 5 合目 2305m～富士山剣ヶ峰 3776m～吉田口～田子の浦手前 15 km～田子の浦ゴール**
赤色は交通移動

累積標高差 5000m

距離 30 km 歩行動時間 12 時間 04:30～16:30

4:00・・・横さんが到着・・・早速に準備をして横さんの車で富士吉田口の駐車場まで移動・・・バスで吉田口 5 合目 2305m まで・・・早朝から観光客や登山者であふれている・・・さすがは富士山だ。



吉田口からの富士山

今日は最終日だ・・・5合目から気合は入っている。
横さんにはこれ以上の迷惑はかけられない・・・ほとんど会話も無しに黙々と歩み続けて、
6合目…さあ、ここからが登りである・・・見上げると山小屋が連なり要塞のようにも見える・・・さあ、登って来いと言わんばかりにこちらを見下ろしている。

今まで3000mの稜線を何日も歩み続けてきたのだ・・・高度順応はできている・・・最小限の荷物なので背中ザックも軽い・・・身体も軽やかだ・・・しかし油断は禁物・・・どこに落とし穴があるかわからないのでペース配分を乱さずに一步一步を確実にリズムよく足を進めていく。

途中で石野氏から横さんに電話が入る・・・私を気遣って心配コールだ・・・しかし、横さんは「俺が足手まといになるくらい大塚さんは早い、何も心配する必要はなさそうだ」。

ほんとにこの日は気温も低いせいもあり身体が軽く自分でも順調すぎるくらいに全く休憩もせずに剣ヶ峰3776mまで上り詰めた・・・3時間。

横さんも20分遅れて登ってきた…ありがとうと手を合わせる…一緒に写真に収めた。



ついに日本の3000m峰25座を最後の富士山剣ヶ峰3776mで完遂

剣ヶ峰からお鉢を巡って、一周して下山道へ入る。
ザラザラの小石のつづら折れで足早に下っていく・・・1時間で吉田口5合目へ。

12時のバスに間に合って、駐車場まで移動・・・最後の最後の田子の浦へ・・・
移動中に愛妻から今新幹線でこっちへ向かっているから、新富士駅に15時に着くから迎えにきてほしいとの事だ・・・横さんに話して迎えに行ってもらふことにする。

私は田子の浦手前15kmで降ろしてもらい、最後の歩きに挑戦する。
しかし、昼過ぎの炎天下は想像以上にアスファルトからの照り返しで体力を消耗する・・・
当然に富士山の登りよりもしんどく辛いのだ。

着替えの服も大倉氏の車に置いて来てしまった・・・ワークマンに寄ってタオルとTシャツを購入すると、「歩いてですか?、どこから来たのですか?、どこへ行くのですか?」と立て続けにお姉さんが質問攻めに・・・「う～ん、今日は朝から富士山に登ってきて今は田子の浦まで歩いている途中です」と・・・「え～～っ!」、「日本海から太平洋まで歩いているのです」、「絶句・・・、私の父よりも年上なのに尊敬します」。

ちょっと待ってと、オロナミンCを2本とチョコバー2本をいただいた・・・感謝感謝である・・・安いシャツとタオルで500円も支払っていないのに・・・本当にありがとうございます・・・一期一会。

2時間ほど炎天下をスルメ状態になりながら・・・やっと田子の浦の看板が見えてきた。



漁港も見えてきた・・・あと少しでみなと公園だ・・・愛妻と横さんが待っている・・・足も早くなり最後の力を振り絞る。



日本海から太平洋…日本アルプス 3000m峰 25 座完歩！！

ゴールには愛妻と我が友、横さんが出迎えてくれていて心身ともにボロボロになってしまったけれど、本当にこれで終わったんだと、実感したとたん目から熱いものが込み上げてきてこれ以上ない感無量です。

その日は田子ノ浦近くのホテルで私と横さんは宿泊。
妻は、明日朝から仕事があるので、祝勝会で祝ってくれたあと、最終の新幹線で帰って来ました。

次の日は横さんが姫路まで終始運転をしてくれて本当に感謝の気持ちで一杯です。



富士の焼き肉店で祝勝会・・・3週間ぶりの肉に舌鼓



極上のあばら肉



私のサプリメントとは大違いである

最後に・・・

みなさん、本当に色々とお励ましメールやサポートしてくださりありがとうございました。今だに起床は3時半になったら目が覚めて…目が開いたら縦走は終わったんだと錯覚を起こしています。

全身の脂肪がペラペラになってしまって、食べても食べても1~2時間経てば、食欲が沸いてきます。

10日のニュースでは当初歩く予定だった見延町の昨日の気温が39度と書いていました。もし実行していたら完全に救急車の世話になっていたことだろうと思います。

本当に精神的、体力的にギリギリの所で、大倉氏の顔を見たときには山の神様に見えて涙が出てきました…また累積標高差4200mを寝ずの運転で12.5時間歩いて来てくれたのには感動という以外言葉が見つかりません。

次の日にまた来た道を帰るという大変な労力…本当に大変なコースでした。私も雨畑から策ヶ岳へは二度と行きたくはない気分です。

下山したときに大倉号を見た時は、正直もう歩きたくない気分でした。温泉浸かって食事をして車移動しているときは、福ちゃん、石野さん、大倉さん、横さんが、本当に数々のアドバイスをしてくれているのに、自分勝手な横柄な意見を述べてしまい本当にすみませんでした…完全に思考も薄れてしまい平常心ではなかったと思っています。

結局は最短コースの吉田口からのピストンに決めましたが、全く後悔はしていません。また、この時期にアルプスからアルプスへの移動に当たっての炎天下のアスファルト道を重荷を背負って歩くのは危険行為だと思いました。

交通機関を我が友に移動させてもらったことに感謝感謝の気持ちで一杯です。

あれから12日が経ち、主治医で健康診断を行いました。

身長…161.7cm…重荷で縮んでいると思ったが大丈夫であった

体重…54.5kg…出る前が58.5kg

ウエスト…50.7cm…出る前が56cm

体脂肪率…6%…出る前が13%

左脇の筋肉が肩甲骨周りに移動して左肩がいまだに完全に上がらない

ドクターはとりあえず食べて寝て軽い運動して休養が必要だと・・・

どうもありがとうございました。

2016/08/20 大塚賢一(61歳)

追記

8/9…大久保氏(69歳)は聖平から田代温泉～接阻狭温泉まで歩かれた…来年70歳で木曽駒を越えて完結予定とのこと…本当に凄いことです。

8/12…徳原氏(37歳)は北鎌やジャン、前穂北尾根も全てクリアの完全走破…体重が9.8kg減、体脂肪6%に落ち込む。8/25日から2ヵ月間中南米へ…手も足も出ない完全脱帽です。



子供や孫たちの励ましのタオル